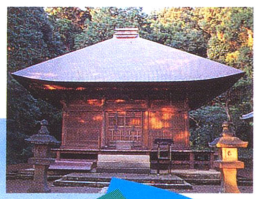
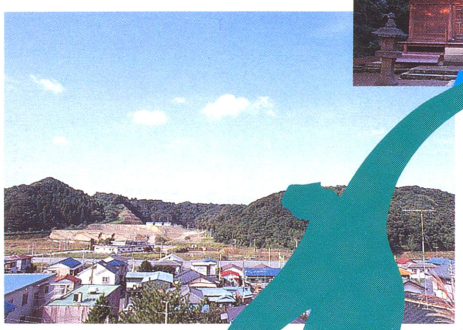
Z-MAP

逗子市制40周年記念誌



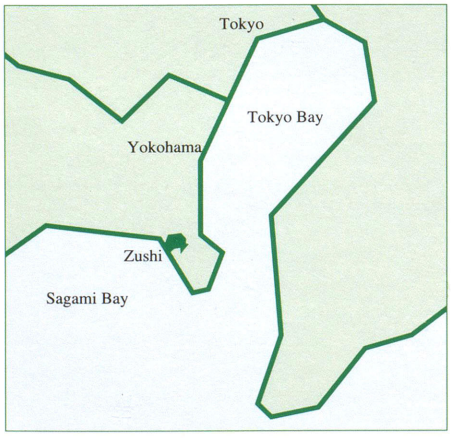


ZUSHI
40th.ANNIVERSARY

市制40周年記念事業実行委員会

逗子

相模湾と東京湾を区切るように、相模野から海に向かって突き出した三浦半島。
そのくびれた付け根の西側に私たちの町、逗子は位置しています。西に鎌倉、南に葉山、東に横須賀、北に横浜……。
湘南と呼ばれる海沿いの一帯の一角を占めるこの辺りは、小さく連なる尾根の間に人々の暮らしが広がっています。
山々の緑と、青い空と、明るい陽光と、そこを吹き抜ける風と、そして人が集い暮らす町と……。
それが、私たちの町、逗子市です。
そして、逗子に生まれて逗子に育った人も、よその土地から移り住んできた人も、等しくこの町に愛着を持っています。
この「Z-MAP」は、私たちの逗子市を、すみからすみまで見つめ直して、
もっともっと自分の町をよく知るためのガイドマップです。



北緯35度17分32秒
東経139度34分49秒
年間平均気温　摂氏15.6度（平成4年）
（最高気温：33.7度、最低気温：-2.6度）
総面積　17.34平方キロメートル
（宅　地　4,254.5千平方メートル）
（山　林　5,852.0千平方メートル）
（　畑　138.2千平方メートル）
（雑種地　809.2千平方メートル）
ほか（地目別土地利用状況から）
総周囲　21.2キロメートル
海岸線　約４キロメートル

市内最高点
二子山山頂　海抜207.9メートル

総人口　57,461人
（男　27,796人、女　29,665人）
（未成年者　10,710人）
（60歳以上者　14,274人）
市民平均年齢　42.06歳
（男　40.60歳、女　43.44歳）
市内法人事業所数　1,723社

（平成6年3月31日現在）

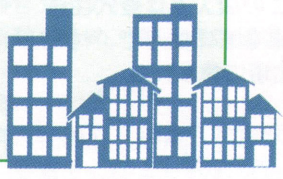
ZUSHI 40th Anniversary
逗子市制40周年記念

人とまちと自然の調和

～湘南の爽やかな風の通る街～

人とは、逗子市民（在住・在勤・在学・逗子にある諸団体の会員）と逗子を訪れる人々、そしてさらには仕事や芸術、スポーツ、日常生活等を通じて逗子市民と交流の深い人々のすべて。

まちとは、ここでは人が生活する住空間（情報やサービスを提供する諸施設、商店および商店街、人や物の往来を円滑に行なうための交通機関や道路網、人が憩い集う公園、精神の豊かさを築き歴史や文化を伝える神社仏閣や教会、教育機関の諸施設、そして市役所をはじめとする公共施設など）を総称しており、かつ近隣のまちと機能的に連続し共存している状態を現す。



自然とは、いうまでもなく「わがまち逗子」の青い海と緑豊かな自然環境そのものである。

そして、これらの調和を図り、さらに未来に突き進むエネルギーを受けて、初めて活力ある理想社会―逗子―にむけて成長することを願う。

本委員会は、行政の方々の援助を受けながら、市民主体の組織運営により、より多くの市民が参加し、逗子市制40周年記念事業に対する多種多様な意見を取り入れながら、地域社会の発展に貢献できるような記念事業を企画し、実践することを目的として発足しました。

この記念事業を、単なる時の通過点の行政行事と捉えるだけでなく、市民参加型で立案から実行までを執り行なうことをめざしています。そして、多くの市民の方々の知恵を集結し、そのこと自体が市民のつながりをうながし、人と地域社会の新しい絆を模索する一助になることを期待しています。この事業を一つの契機として、逗子という地域特有の問題や夢への意識を多くの市民が共有し、問題は解決の糸口を見つけ出し、夢は具現化に向けての案を構築することに意味があると思います。

また、変わりゆく時代の波に打ち消されてしまいそうな、逗子に残る文化や歴史にも光をあて、私たちのまちが辿ってきた道のりをふりかえってみる必要もあるでしょう。

このような市民と行政が、力を合わせた事業活動は、市民自治論や地方分権論の盛んななかで、ますます論議を重ねられることでしょう。そして、少しずつそのシステムが改善され、21世紀の国づくりやまちづくりには、いずれよりよい方法として定着することも期待されます。

逗子でも、今後とも市民一人一人の責任ある発言と行動による市民参加活動が、まちづくりの大きな原動力となるでしょう。そしていろいろな意見を、民主主義のルールに基づいた話合いのなかで調整し、調和しながら事業を計画し展開しています。

人とまちと自然を愛する心を源とする論議であれば、自ずと個々の異なった意見も共鳴し合うことを信じて疑いません。そして、委員や協力し参加してくださる市民の方々の、前向きな意見と小さな汗が潤滑油となって、大きな調和を生み出してゆくことでしょう。

21世紀へ、そして50周年につながる意義深い記念事業になるよう、ご理解、ご支援のほどよろしくお願いいたします。

市制40周年記念事業実行委員会

逗子の歴史 その1

HISTORY

縄文時代

縄文時代早期（約8000～7000年前）の遺跡は、披露山、沼間5丁目遺跡の山頂から土器片が発見されている。また中期（約5000～3000年前）の遺跡としては、岩ヶ谷、披露台、沼間、桜山、池子地区などで、土器や石器が発見されている。

奈良時代

池子遺跡では方形周溝墓が十数基見つかっている。祭祀用石製模造品、白銅鏡、土器などが出土している。

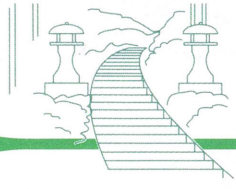
この時期の遺跡として新宿から山の根にかけて、古墳時代後期以降の横穴墓群が数多く存在している。横穴墓群の分布は田越川の右岸にあたる逗子市域の北側の丘陵地帯の裾部にのみ構築されている。新宿稲荷社裏の横穴から、鈴釧が出土している。

723（養老７）年
岩殿寺が徳道・行基により開かれる（縁起）。

724（神亀元）年
行基が錫杖して神武寺を開く（縁起）。この頃行基が延命寺・法勝寺を開く（寺伝）。

平安時代

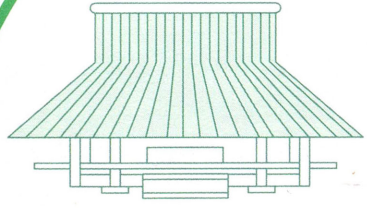
749（天平勝宝元）年
正倉院古裂に鎌倉郡沼浜郷大伴部広麿が調・庸布一端ずつ献上したと墨書してある。この頃人々は竪穴住居や堀立柱の粗末な家に住んで、村の有力者が横穴古墳に葬られた。



935（承平５）年
倭名類聚鈔に鎌倉郡沼浜郷の名がある。

1063（康平６）年
前九年の役の功により村岡為道が三浦半島を領し、三浦の姓を名乗り衣笠城を築く（一説に三浦公義）

1141（永治元）年頃
源義朝が三浦義明の娘（？）と沼浜亭に住む。



1200（正治２）年
９月　二代将軍頼家が小坪に遊び、ご家人等の笠懸、角力、水泳等を観覧する。

1202（建仁２）年
２月　政子が舅義朝の夢のお告げにより、沼浜邸を壊して鎌倉亀ヶ谷の寺（寿福寺）に移築する。

1204（元久元）年
４月18日　三代将軍実朝が夢のお告げにより、岩殿寺に参詣。

1194（建久５）年
４月21日　頼朝、六代御前を招いて対面する。
６月17日　源頼家、岩殿寺に通夜祈願を行なう。
８月26日　頼朝は歯痛が直り田越川辺を逍遥。

1199（正治元）年
２月　頼朝の死後文覚流罪、六代御前が田越川原で斬られる。

1209（承元３）年
5月15日　実朝が神武寺と岩殿寺に参詣する。

1213（建保元）年
4月　和田義盛の甥・胤長の荏柄の邸を、義盛の代官久野谷弥次郎が預かっていたのを北条義時に奪われる。

1221（承久３）年
承久の乱に上皇に味方した三浦胤義の遺児4人が田越川畔で斬られる。

1223（貞応２）年
4月17・18日　都から旅してきた人の日記に、「飯島に数百艘の船がつないであり、商家がたくさんあった」という記述。

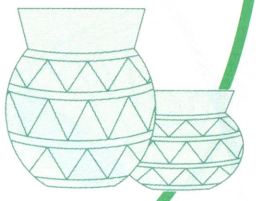
1224・1235（元仁元・嘉禎元）年
北条泰時が流行病を鎮めるためと将軍病気平癒のため「鎌倉四境」の南境の祭りを小坪で行なう。

弥生時代

鴫鶴ヶ崎の末端では標高約8mの場所ではめずらしい低地に、竪穴住居址および土器片、石鏃などが発見されている。

桜山貯水池、才戸谷池西側、沼間小学校、沼間台、桜山大山、池子トンネル上などが縄文時代の遺跡の散布地として知られている。

披露山、持田、沼間1丁目、沼間台、内藤屋敷、才戸谷、アザリエ団地内、海宝院裏、池子などに中期から後期にかけての遺構、遺物が発見されている。台地上から低地の水の便のよい所に住み、水田耕作を始めた。



古墳時代

およそ4世紀から6世紀頃を指すが、三浦半島においては約1世紀の遅れがある。持田台には古墳時代前期から後期にわたる集落の中心がある。相模川上流のグリーンタフを原料とする祭祀用玉類の完形品と未製品、石釧などが出土していることからみても、玉造りの工房があったと考えられる。

持田台は、弥生時代から平安時代へと続く集落遺跡として、逗子の中心をなす遺跡と考えられる。また、池子遺跡では、旧河道、その他から豊富な木製品、獣骨、卜骨などが多数発見されている。特に大量の農具と農耕遺跡は特筆に値する。

鎌倉時代

1144（天養元）年
義朝が三浦一族と共に大庭御厨に乱暴を働く。

1159（平治元）年
平治の乱に義朝の長男義平が沼浜亭からはせ参じる。

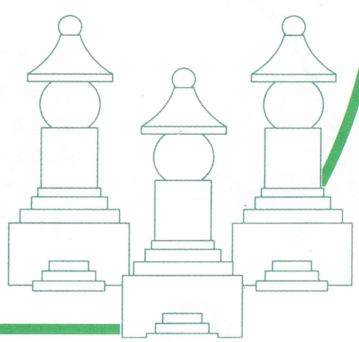
1177（治承元）年
源頼朝、伊豆から三浦半島に微行、名越の山中で源家ゆかりの父娘から、新箸の饗応をうける。

1180（治承４）年
三浦勢は頼朝の石橋山旗上げ合戦に遅参、帰途平家方畠山軍と小坪坂で合戦となる。

1182・1183（寿永元・２）年
頼朝平家追討祈願のため、神武寺に坊舎寄進（縁起）。

1185（文治元）年
平家六代の嫡男六代御前（妙覚）が京都で捕らえられ、文覚上人により助命がかなう。

1187（文治３）年
２月23日　頼朝の娘大姫が岩殿寺に参詣する。



1192（建久３）年
５月8日　後白河法皇49日忌に岩殿寺参列。
８月9日　政子の安産祈願に神武寺が参加。

1193（建久４）年
７月10日　頼朝が家臣と小坪浜に終日遊ぶ。
８月29日　大姫の病気祈願に政子岩殿寺参詣。
９月18日　同じく頼朝が岩殿寺・杉本寺参詣。

1225（嘉禄元）年
９月8日　田越河原に八万四千基の供養塔が立てられる。

1230（寛喜２）年
11月13日　岩殿寺観音堂再建の地形が行なわれる。将軍心願により田越河原に人形（ヒトガタ）を流し「七瀬の祓」を行なう。

1232（貞永元）年
７月15日　往阿弥の勧進で、北条泰時が和賀江築港に着手。

1242（仁治３）年
町中に墓所を置かぬよう法令が出る。（ただし府中の例。鎌倉にも適応すれば、名越のやぐら群はこの頃のものか。）

1247（宝治元）年
６月　北条時頼が三浦一族を鎌倉法華堂に滅ぼす。

1248（宝治２）年
９月19日　黄蝶の大群が幅20メートルほどで三崎から名越へ飛来。

逗子の歴史 その2

HISTORY

1260（文応元）年
7月28日　日蓮の名越の草庵が焼き打ちにあい、日蓮は白猿に養われ山中に隠棲、1320（元応2）年、この地に法性寺が建立される。
1290（正応３）年
八幡宮舞師中原光氏が、神武寺岩窟で入定する。この頃、鎌倉時代のやぐら墓は高級武士か僧侶のもので、庶民は住地から少し離れた山裾、谷間、河畔、海辺などの葬送場に送った。

1516（永正13）年
7月11日　三浦一族新井城で全滅。半島はその後北条氏支配になる。
1537（天文６）年
6月15・16日　八幡宮の一の鳥居の用材を数千人で小坪浦から由比ヶ浜へ引き上げた。
1556または1561（弘治２または永禄４）年
太平寺青岳尼が里見義弘に連れ去られる。

1559（永禄２）年
北条氏の軍役・普請役等を記す役帳に、池子・久野谷・柏原・山の根・沼間・小坪の名が見える。
1575（天正３）年
池子と十二所を結ぶ峠の明石で十五夜の月を詠んだ歌が、桂林集という歌集にある。
1583（天正11）年
7月　延命寺が雨乞いの祈祷をする。

桃山時代

1590（天正18）年
３月　後北条氏が、逗子の人々に（武士以外の商工人も）参軍するように命じる。
７月　秀吉軍、後北条氏を滅ぼし、全国統一。このとき神武寺焼亡（後北条氏の支城説）。三浦半島を含む関東一円は、徳川家康に与えられる。

1591（天正19）年
家康が神武寺、岩殿寺、延命寺、東昌寺、海宝院（はじめは横須賀）、に寺領保証の朱印状を授与。
1594（文禄３）年
代官頭長谷川長綱が、半島各地を検地する。（小坪、桜山、久野谷、池子、沼間の検地帳残存）この頃、長綱は田越牛招島の牛王権現堂修繕費を、桜山村民から300文ずつ徴収。

1728（享保13）年
9月　関東一円風水害、当地も大水害。
1740（元文５）年
5月　大雹で麦作大被害。桜山～沼間で15センチ積もり、畑作は４割減となる。
1749（寛延２）年
桜山等五ヶ村の領主が酒井氏から松平大和守（前橋藩→川越藩）に代わる。浦郷に陣屋。

1764～1788（明和、安永、天明期）
天候不順、田沼財政などで飢饉、悪疫流行、村々から年貢減免訴願、1770年池子村年貢は7割減となる。
1793（寛政５）年
異国船来航に備え、老中松平定信らが相模、房総等沿岸視察。随行絵師谷文晁画『公余探勝図』に久野谷、鐙摺の図がある。
1811～1821（文化８～文政４）年
三浦半島が海防担当の会津藩松平肥後守領地となる。寺領の池子、柏原は除く。

1819（文政２）年
田越橋が流され、架け替え費用に半島内の髪結い床約50軒に、上納金を課すよう久野谷村名主が代官所に願書を出した。
1822（文政５）年
イギリスの捕鯨船が浦賀に来る。10日間の警備に市域村々等31村の5686人、馬338頭が動員される。

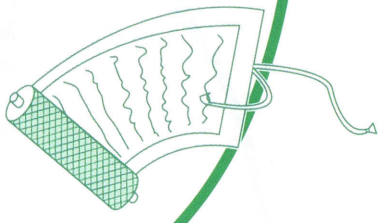
この後1868（慶応４）年まで、川越松平・彦根井伊・萩毛利・熊本細川・佐倉堀田の海防役諸大名の領地・預地とめまぐるしく代わり、半島各地に台場が設けられ、海防御用として小坪は水夫と船、他村は人と馬が大量に徴発される。
1812（文化９）年
桜山・堀内村名主が代官所に願い、会津から種馬12頭を牽いてきて、半島村々に頒布する。

南北朝時代

1337（建武４）年
北畠顕家、奥州より鎌倉に侵入、小坪（壺）で戦う。
1350（観応元）年
宝戒寺二世慈源が神武寺住職となる（縁起）。
1353（文和２）年
滝の沢（浪子）不動尊が建立される。
1362（貞治元）年
4月19日　小坪の半分が鎌倉円覚寺黄梅院領となる。
1367（貞治６）年
4月26日　関東公方足利基氏没。その菩提を弔うため夫人清渓尼が太平寺を再興。この頃池子は寺領となるか。
1376（永和２）年
小坪海前寺が建立される。

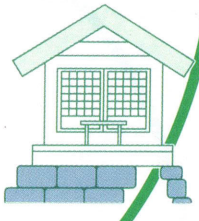
室町時代

1471（文明３）年
久野谷妙光寺が松岡雅楽助により建立される。
1489（延徳元）年
久野谷郷猿口村と柏原在家が、宇都宮氏家臣渋垂氏領として古河公方に安堵される。
1495（明応４）年
三浦道寸義同が、父時高を討ち半島を統一する。
1507（永正４）年
神武寺炎上、のち1580年代に北条氏直が御朱印百石を賜う。
1512（永正９）年
北条早雲に岡崎城を追われた義同が、小坪住吉城に拠る。住吉城から新井城に敗退するとき、義同の弟、道香主従7名が延命寺付近で自害。



江戸時代

1603（慶長８）年
家康、征夷大将軍となり幕府を開く。
1637（寛永14）年
池子村が鎌倉英勝寺領となる。寺創立の英勝院は家康の側室お勝の方で、水戸藩祖の准母。
1645～1705（正保２～宝永２）年
60年間に市域の人々延べ376人が、高野山参詣。
1664（寛文４）年
桜山、沼間2村が前橋藩酒井雅楽頭の飛地藩領になる。
この頃、池子阿弥陀谷の阿弥陀如来像（伝運慶作・発願平政子）を東昌寺内に移す。（この後、1727年焼失、1758年再建）
1674（延宝２）年
小坪、片瀬、本牧等約30漁村が江戸新着場附浦となり、他所へ売ることは禁じられる。
1675（延宝３）年
柏原村が鎌倉光明寺領になる。
1679（延宝７）年
小坪村から幕府に活鯛献上、享保７（1722）年まで続いた。
1699（元禄12）年
久野谷、逗子、山野根が前橋酒井藩に加わる。この年、新宿浜の地境争いで小坪と逗子の若者300人が浜で乱闘、江戸評定所で3年越しの裁判となる。判決は小坪領分と決まり逗子村は入会銭を支払って利用権を得る。
1702（元禄15）年
『元禄郷帳』に市域八ヶ村＝小坪、逗子、桜山、山野根、久野谷、久野谷村枝郷柏原、沼間の村高がのる。
1703（元禄16）年
11月　大地震で山崩れ、大津波、東昌寺客殿大破。津波は陸に１里も入る。
1707（宝永4）年
11月　富士山大噴火で市域も10センチほど石と灰が降る。前橋藩からは御救金が出た。



1836～1837（天保７～８）年
飢饉で葛根採りに二子山へ連日100人もの人が登るのが神武寺から見え、寺は住職の葬式費用を飢民救済にあてた。小坪浜名主は50両を寄付。富農等も米・金を拠出した。天保の大飢饉で世情不安となり、三浦郡中議定で久野谷村名越坂・小坪村切り道・池子村通・浦郷村法事堂の四か所に番小屋を建て、不審者の半島侵入を防ぐ。以後もことあるごとに番人を置いた。
1839（天保10）年
小坪村浜組がたびたび岡組との協定を破って藻草取りをしたので、浜名主が訴えられた。
1842（天保13）年
桜山村の32名が冬期70日間の伊勢参詣願いを出す。
1843（天保14）年
短期間だが小坪村大崎に台場（砲台）設置。

逗子の歴史 その3

HISTORY

1847（弘化４）年
小坪宿の助郷役久野谷・桜山・山野根村は年間人足2327人・馬283頭が徴発される。海防以前の人は10倍、馬は30倍。翌年、三ヶ村は減免訴願。当時三ヶ村の戸数約190戸。
1849（嘉永２）年
6月　賭博帰りの小坪村の若者達が、天王社参りの久野谷の若者と喧嘩。寺の仲介で小坪が詫びる。

明治時代

1868（明治元）年
明治維新。三浦郡が韮山県に編入され、12月神奈川県になる。
1869（明治２）年
池子村・柏原村が寺領を離れる。池子村は明治4年まで水戸藩領。
山の根熊野神社焼失、廃仏毀釈で廃寺になった松本寺を社殿に移築。

1870（明治３）年
養蚕奨励のため市域村々に２～3000本宛、桑の木を配布。
1871（明治４）年
堀内郷学校の支校を小坪香蔵寺庫裡に開校。
1872（明治５）年
逗子小学校の前身を菊池丈成宅に開校。

1873（明治６）年
区番制施行により、小坪・久野谷・山の根・沼間・池子・柏原・逗子・桜山が第15大区7番組になる。
1874（明治７）年
第15大区7番組は第15大区7小区になる。
久野谷と柏原が久木村となる。
鷺浦学舎（小坪小学校）が香蔵寺本堂に開校される。

1878（明治11）年
郡区制実施で三浦郡となる。
1883（明治16）年
名越トンネルが完成する。
1884（明治17）年
連合戸長制を実施。役場が逗子村に移る。
田越橋が流れて以後渡し場となる。
1886（明治19）年
コレラ大流行、全国死者11万人、逗子では17人。

大正時代

1908（明治41）年
沼間トンネル開通。
味の素逗子工場ができる。
1910（明治43）年
逗子開成中学のボートが江の島沖で遭難し12名死亡。真白き富士の嶺の歌が全国に広まる。

1911（明治44）年
逗子郵便局に電話局が開設される。
1912（明治45・大正元）年
逗子最初の海開き。逗子停車場に派出所開設。
長者ヶ崎、金沢と逗子駅間乗合バスが開通する。

1913（大正２）年
町制施行により田越村から逗子町になる。
1917～1924（大正６～13）年
横須賀線複線化にともなう電化工事完了。
1917（大正６）年
六代御前の境内拡張工事着工。
9月30日の台風で逗子海岸の別荘地帯全壊129戸。

1920（大正９）年
横須賀警察葉山分署が独立したので、明治43年から葉山分署の管轄だった逗子は、葉山警察署の管轄になる。
1922（大正11）年
町立逗子実科高等女学校が創立される。

1853（嘉永６）年
6月　ペリー艦隊浦賀に来航。警備に大徴発される一方、異国船見物人も出る。
この年、幕府は異国船の江戸湾封鎖対策として小坪～田越川～浦郷へ堀抜く半島横断水路開削工事を計画したが、沼間村は反対訴願を行なう。（以前にも江戸商人による運河計画があった。）

1854（安政元）年
1月　ペリー再来。この年、三浦郡34ヶ村は海防御用過重を訴え出る。幕府、大砲に鋳替えるため諸国寺院の鐘を供出するよう命ずる。小坪村浜名主に、家柄のない若者英太郎を擁立する騒動が起こる。（岡名主の奔走で、騒動は辛うじて事なきを得る。）

1855（安政２）年
大地震で田越橋崩壊、陣屋や台場も被害甚大で死者も出た。

1858（安政５）年
開国により海防態勢が縮小される。翌年横浜港開港。

1860（万延元）年
大老井伊直弼（嘉永年間小坪・逗子の領主）が桜田門外で暗殺される。

1865（慶応元）年
横須賀製鉄所建設で、小坪宿等の人足、馬の継立が急増、困窮の訴えが出される。

1866（慶応２）年
横浜開港にともない幕府は桜山大山に「牧牛場」を開こうとするが、地元は反対する。

1867（慶応３）年
寺領池子・柏原を除く六ヶ村は、幕府領となり韮山代官江川太郎左衛門の支配になる。村々では農兵稽古に動員される。

1889（明治22）年
町村制実施により田越村となる。村長高橋安行。
横須賀線開通し逗子駅（停車場）開業。
養神亭開館。

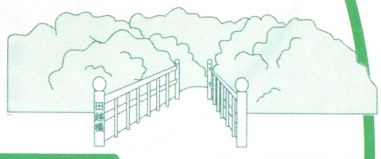
1890（明治23）年
逗子駅から葉山御用邸へ乗合馬車が通じる。

1892（明治25）年
この頃、逗子海岸に赤異人館、青異人館などの外国人の別荘ができる。

1894（明治27）年
元田越橋の所に、丸富治郎が富士見橋を架ける。東小坪に巡査駐在所ができる

1895（明治28）年
国木田独歩が柳屋に佐々城信子と新婚生活を送る。

1896（明治29）年
延命寺全焼。
桜山下古河電工敷地埋め立て。



1899（明治32）年
田越村が要塞地帯に入る。

1900（明治33）年
柳屋で徳富蘆花が執筆した小説「不如帰」、随筆「自然と人生」がベストセラーとなる。

1902（明治35）年
泉鏡花、桜山に寓居。明治38年亀井に再び寓居。

1903（明治36）年
逗子開成中学校が池子東昌寺に開校。翌年新宿浜に移転。42年に東京開成から完全独立。

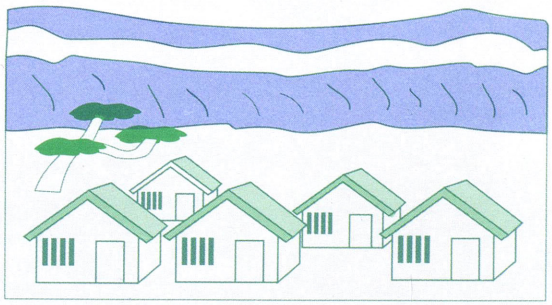
1905（明治38）年
平田東助伯の尽力で田越鐙摺切通しができる。

1907（明治40）年
小坪報身院、香蔵寺焼失、41年小坪寺になる。

1923（大正12）年
関東大震災。役場その他町域の多くが倒壊。小坪で津波７m。戒厳令が布かれる。

1924（大正13）年
逗子信用組合が役場内に事務所を置いて開業。

1926（大正15）年
新宿の海岸になぎさホテルが開業する。



逗子の歴史 その4

HISTORY

昭和時代

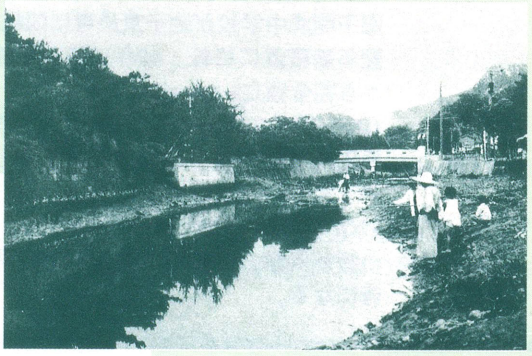
1927（昭和２）年
小坪海岸約九万坪の埋立計画で町をあげての反対運動が続くが、昭和6年大体決着する。
1929（昭和４）年
小林町長辞職。
国鉄海の家開場。
行幸道路計画、6年に完成。
関東ガスのガス工事始まる。

1945（昭和20）年
駅前の強制疎開で、戦後ロータリーができる。
小坪砲台爆破事故で少年14名が焼死する。
1946（昭和21）年
海宝院境内に物資交換所、披露山下に電気製塩所ができる。
沼間沖縄引き揚げ寮火災。

1947（昭和22）年
沼間分教場が沼間小学校となる。
逗子中学校開校。
池子弾薬庫大爆発、住民1000人が葉山に避難。
沼間駅新設の運動が起こる。
1948（昭和23）年
逗子警察署が創設された。
聖マリア、逗子福音教会、延命寺保育園創立。

1949（昭和24）年
逗子パブテスト・聖ペテロ教会創立。
キティ台風で海岸更衣所全滅。
1950（昭和25）年
横須賀市より分離独立。
初代町長荒井友三郎。
朝鮮戦争で池子弾薬庫に搬入頻繁。
逗子ペンクラブ、体育協会など発足、図書館、消防署ができる。

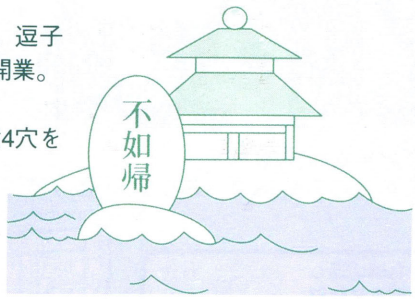
逗子が市になった頃



田越橋

駅前ロータリー

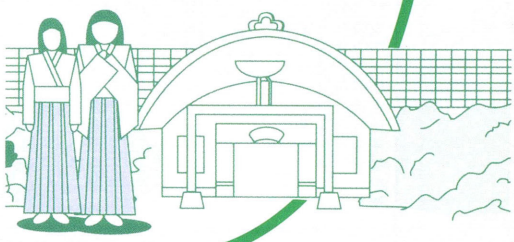
1930（昭和５）年
湘南電鉄（京浜急行）神武寺駅、逗子駅ができる。翌年9月逗子海岸駅開業。
1931（昭和６）年
逗子駅裏道路開削のとき横穴古墳4穴を発掘。
1933（昭和８）年
県営水道が営業を開始する。
不如帰碑建立。



1937（昭和12）年
帝国海軍が池子弾薬庫計画に着手。
逗子町新庁舎竣工。
1938（昭和13）年
逗子小学校久木分教場開校、昭和24年独立。
1940（昭和15）年
沼間発射場（海軍工廠沼間機銃発射場）設立。

1943（昭和18）年
逗子町横須賀市に合併。逗子から4名の市議が送られる。このとき新宿が小坪から分かれて大字新宿となる。
1944（昭和19）年
池子桟敷戸に鉱泉赤湯温泉があったが、接収で立ち退く。
神武寺駅はトンネルの北から南へ移る。

1941（昭和16）年
池子接収地内の強制立ち退き進められる。
久木トンネル開通。
小坪分教場が小坪小学校となる。
桜山、広地に海軍住宅ができる。
1942（昭和17）年
湘南女学塾（聖和学院）が延命寺境内に開校。昭和20年に久木海軍工廠跡地に移転する。

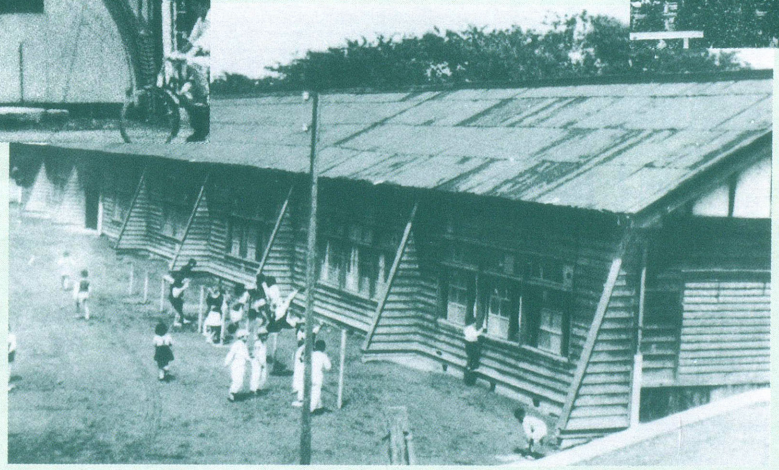


1951（昭和26）年
逗子映画劇場（東映）設立。
京急の薪燃料バスの運転終了。
初の逗子町文化祭を行なう。
1952（昭和27）年
東逗子駅開業。
池子に町立湘南保育園発足。
逗子町警察が国警となる。

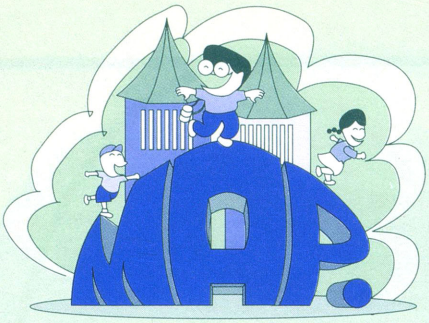
1953（昭和28）年
町長荒井友三郎が早雲山地すべりで遭難。
山田俊介町長が就任。
逗子駅裏駅（北口）ができる。
逗子湾を競艇場にする計画が反対運動により中止となる。
1945（昭和29）年
逗子警察は県警の管轄に。
蘆花、独歩が宿泊の柳屋焼失。
市制施行。

駅前にあったカマボコ図書館

東逗子駅



沼間小学校



◎逗子の再発見ガイド！◎

市内『バスガイド』付

文化財・史跡マップ

逗子は古い歴史をもつ土地
記念碑などをあなたの散歩コースに織り込んでみませんか。

逗子駅前発→小坪・名越経由鎌倉 行

	平日		休日	
	小坪経由	名越経由	小坪経由	名越経由
6	26 37 45 53	21 45	27 57	21 53
7	01 09 17 25 31 37 43 49 55	11 41	27 57	29
8	01 07 13 19 29 39 51	15 56	17 32 47	00 58
9	06 15 27 42 58	58	02 17 32 48	
10	16 35 57	58	03 17 32 47	01 58
11	16 36 54	55	02 19 32 47	58
12	06 21 34 51	53	02 17 32 47	
13	06 28 42	59	02 17 32 47	10 57
14	05 28 45		03 17 35 52	51
15	05 20 43	04 45	10 27 43	31
16	05 21 37 45	40	10 24 40	03 39
17	05 16 32 52	12 45	11 26 42	14 37
18	02 21 33 51	09 55	16 32 48	22 35
19	09 21 30 47	25	02 22 42 58	16 44
20	05 18 37 52	00 49	12 35 53	13 47
21	10 30 53	55	14 37	15 54
22	12(42)		12	
23	(04) (34)			
備考	○印…土曜日運休　　( )…深夜バス			

●名越切通し
国指定文化財
所在：小坪７丁目、久木９丁目

●お猿畠の切岸

●観音堂
市指定文化財
所在・所有：岩殿寺

●山の根装飾横穴
市指定文化財
所在・所有：山の根２丁目

熊野神社
横穴群

●和賀江島
国指定文化財
所在：小坪５丁目

◎尾崎行雄記念碑
所在：披露山公園内

●木造阿弥陀三尊立像
市指定文化財
所在・所有：海前寺

●銅造阿弥陀三尊像
市指定文化財
所在・所有：延命寺

●木造阿弥陀如来立像
市指定文化財
所在・所有：仏乗院

◎泉鏡花文学碑
所在：大崎公園内

◎真白き富士の嶺の碑
所在：逗子開成高校校門内

◎さくら貝の歌の歌碑
所在：浪子不動前

●木造十王像・奪衣婆坐像
市指定文化財
所在・所有：宗泰寺

◎不如帰の碑
所在：浪子不動前の海中

◎蘆花・独歩ゆかりの地
所在：富士見橋近く

◎国木田独歩文学碑
所在：逗子市浄水管理センター

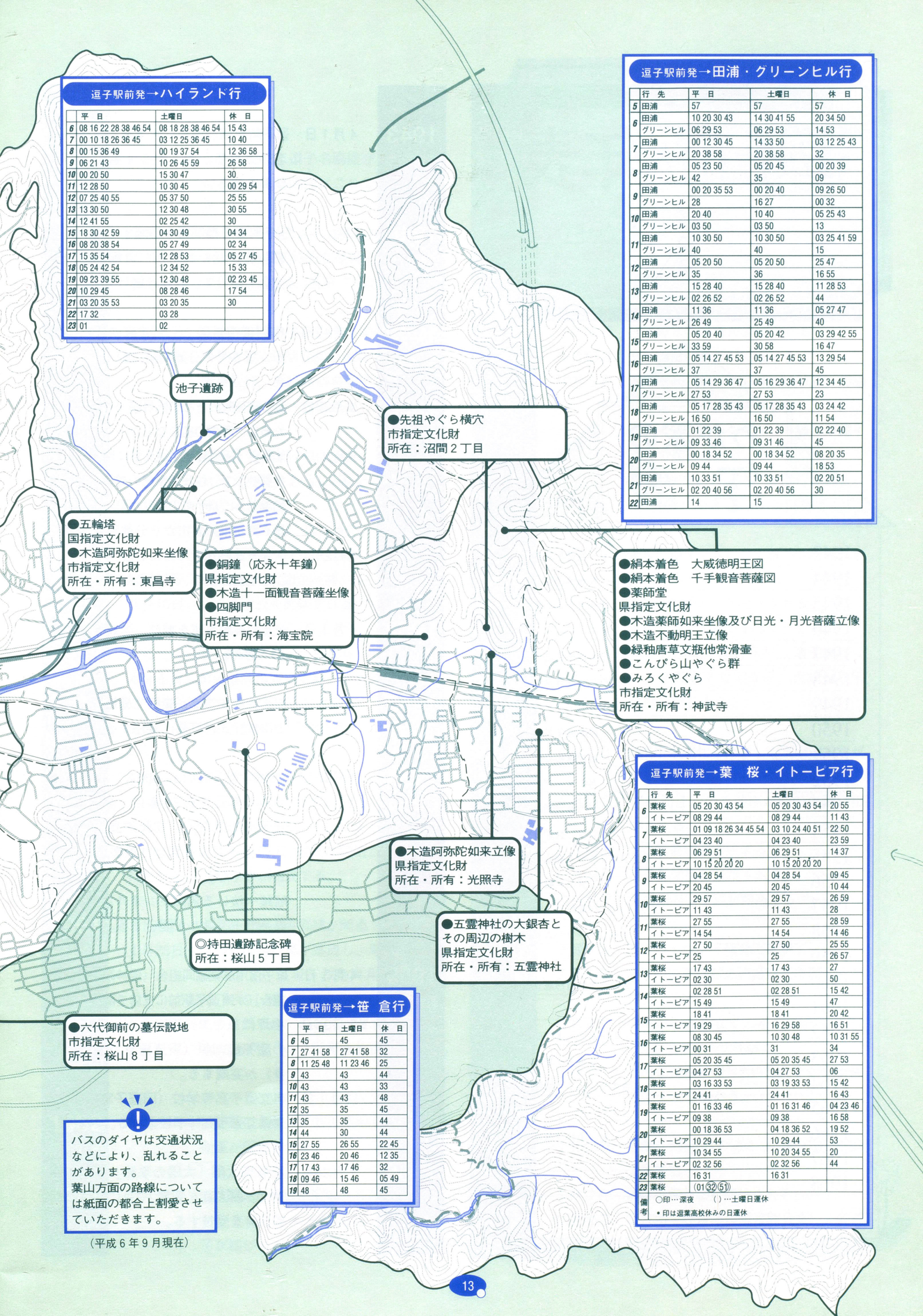
●鐙摺の不整合を示す露頭
県指定文化財
所在：桜山９丁目

◎徳富蘆花文学碑
所在：蘆花記念公園内
野外活動センター前

◎蘆花・独歩ゆかりの地
（柳屋跡）
所在：富士見橋近く

●「鐙摺不整合」の露頭
市指定文化財
所在：桜山９丁目

◎逗子市郷土資料館
所在：蘆花記念公園内
●菊座鈕小松流水文双雀鏡
●菊座鈕小松散文双雀鏡他硯二面
市指定文化財
所在：郷土資料館



逗子駅前発→ハイランド行

	平　日	土曜日	休　日
6	08 16 22 28 38 46 54	08 18 28 38 46 54	15 43
7	00 10 18 26 36 45	03 12 25 36 45	10 40
8	00 15 36 49	00 19 37 54	12 36 58
9	06 21 43	10 26 45 59	26 58
10	00 20 50	15 30 47	30
11	12 28 50	10 30 45	00 29 54
12	07 25 40 55	05 37 50	25 55
13	13 30 50	12 30 48	30 55
14	12 41 55	02 25 42	30
15	18 30 42 59	04 30 49	04 34
16	08 20 38 54	05 27 49	02 34
17	15 35 54	12 28 53	05 27 45
18	05 24 42 54	12 34 52	15 33
19	09 23 39 55	12 30 48	02 23 45
20	10 29 45	08 28 46	17 54
21	03 20 35 53	03 20 35	30
22	17 32	03 28	
23	01	02	

逗子駅前発→田浦・グリーンヒル行

	行　先	平　日	土曜日	休　日
5	田浦	57	57	57
6	田浦	10 20 30 43	14 30 41 55	20 34 50
	グリーンヒル	06 29 53	06 29 53	14 53
7	田浦	00 12 30 45	14 33 50	03 12 25 43
	グリーンヒル	20 38 58	20 38 58	32
8	田浦	05 23 50	05 20 45	00 20 39
	グリーンヒル	42	35	09
9	田浦	00 20 35 53	00 20 40	09 26 50
	グリーンヒル	28	16 27	00 32
10	田浦	20 40	10 40	05 25 43
	グリーンヒル	03 50	03 50	13
11	田浦	10 30 50	10 30 50	03 25 41 59
	グリーンヒル	40	40	15
12	田浦	05 20 50	05 20 50	25 47
	グリーンヒル	35	36	16 55
13	田浦	15 28 40	15 28 40	11 28 53
	グリーンヒル	02 26 52	02 26 52	44
14	田浦	11 36	11 36	05 27 47
	グリーンヒル	26 49	25 49	40
15	田浦	05 20 40	05 20 42	03 29 42 55
	グリーンヒル	33 59	30 58	16 47
16	田浦	05 14 27 45 53	05 14 27 45 53	13 29 54
	グリーンヒル	37	37	45
17	田浦	05 14 29 36 47	05 16 29 36 47	12 34 45
	グリーンヒル	27 53	27 53	23
18	田浦	05 17 28 35 43	05 17 28 35 43	03 24 42
	グリーンヒル	16 50	16 50	11 54
19	田浦	01 22 39	01 22 39	02 22 40
	グリーンヒル	09 33 46	09 31 46	45
20	田浦	00 18 34 52	00 18 34 52	08 20 35
	グリーンヒル	09 44	09 44	18 53
21	田浦	10 33 51	10 33 51	02 20 51
	グリーンヒル	02 20 40 56	02 20 40 56	30
22	田浦	14	15	

逗子駅前発→葉　桜・イトーピア行

	行　先	平　日	土曜日	休　日
6	葉桜	05 20 30 43 54	05 20 30 43 54	20 55
	イトーピア	08 29 44	08 29 44	11 43
7	葉桜	01 09 18 26 34 45 54	03 10 24 40 51	22 50
	イトーピア	04 23 40	04 23 40	23 59
8	葉桜	06 29 51	06 29 51	14 37
	イトーピア	10 15 20 20 20	10 15 20 20 20	
9	葉桜	04 28 54	04 28 54	09 45
	イトーピア	20 45	20 45	10 44
10	葉桜	29 57	29 57	26 59
	イトーピア	11 43	11 43	28
11	葉桜	27 55	27 55	28 59
	イトーピア	14 54	14 54	14 46
12	葉桜	27 50	27 50	25 55
	イトーピア	25	25	26 57
13	葉桜	17 43	17 43	27
	イトーピア	02 30	02 30	50
14	葉桜	02 28 51	02 28 51	15 42
	イトーピア	15 49	15 49	47
15	葉桜	18 41	18 41	20 42
	イトーピア	19 29	16 29 58	16 51
16	葉桜	08 30 45	10 30 48	10 31 55
	イトーピア	00 31	31	34
17	葉桜	05 20 35 45	05 20 35 45	27 53
	イトーピア	04 27 53	04 27 53	06
18	葉桜	03 16 33 53	03 19 33 53	15 42
	イトーピア	24 41	24 41	16 43
19	葉桜	01 16 33 46	01 16 31 46	04 23 46
	イトーピア	09 38	09 38	16 58
20	葉桜	00 18 36 53	04 18 36 52	19 52
	イトーピア	10 29 44	10 29 44	53
21	葉桜	10 34 55	10 20 34 55	20
	イトーピア	02 32 56	02 32 56	44
22	葉桜	16 31	16 31	
23	葉桜	(01 ㉜ ㊶)		

備考　○印…深夜　（）…土曜日運休
●印は逗葉高校休みの日運休

逗子駅前発→笹　倉行

	平　日	土曜日	休　日
6	45	45	45
7	27 41 58	27 41 58	32
8	11 25 48	11 23 46	25
9	43	43	44
10	43	43	33
11	43	43	48
12	35	35	45
13	35	35	44
14	44	30	44
15	27 55	26 55	22 45
16	23 46	20 46	12 35
17	17 43	17 46	32
18	09 46	15 46	05 49
19	48	48	45

池子遺跡

●先祖やぐら横穴
市指定文化財
所在：沼間２丁目

●五輪塔
国指定文化財
●木造阿弥陀如来坐像
市指定文化財
所在・所有：東昌寺

●銅鐘（応永十年鐘）
県指定文化財
●木造十一面観音菩薩坐像
●四脚門
市指定文化財
所在・所有：海宝院

●絹本着色　大威徳明王図
●絹本着色　千手観音菩薩図
●薬師堂
県指定文化財
●木造薬師如来坐像及び日光・月光菩薩立像
●木造不動明王立像
●緑釉唐草文瓶他常滑壷
●こんぴら山やぐら群
●みろくやぐら
市指定文化財
所在・所有：神武寺

●木造阿弥陀如来立像
県指定文化財
所在・所有：光照寺

●五霊神社の大銀杏とその周辺の樹木
県指定文化財
所在・所有：五霊神社

◎持田遺跡記念碑
所在：桜山５丁目

●六代御前の墓伝説地
市指定文化財
所在：桜山８丁目

バスのダイヤは交通状況などにより、乱れることがあります。
葉山方面の路線については紙面の都合上割愛させていただきます。

（平成６年９月現在）

1943－1994

逗子市の年表 1

わが家の年表

1943	大本営「ガダルカナル転進」発表
1944	学童集団疎開
1945	第二次世界大戦終戦
1946	
1947	日本国憲法施行
1948	国際軍事極東裁判
1949	フジヤマのトビウオ
1950	朝鮮戦争勃発
1951	対日講和条約
1952	血のメーデー
1953	TV放送開始
1954	「ゴジラ」封切り
1955	トランジスタラジオ商品化
1956	ハンガリー動乱
1957	スプートニク1号打ち上げ
1958	「ミッチーブーム」
1959	
1960	新安保条約自然成立
1961	
1962	米ベトナム軍事介入本格化
1963	ケネディ暗殺
1964	東京オリンピック開催
1965	
1966	ビートルズ来日
1967	
1968	

1943 昭和18年

4月1日　逗子町が横須賀市に大軍都として強制合併される。逗子から4名の市議会議員を送る。

1946 昭和21年

12月　逗子町の分離問題を協議する町内会長懇談会が開かれたが、自重論自治研究会を設けて、検討を続ける。

1949 昭和24年

7月17日　横須賀市長選で、石渡直次氏が当選し、逗子町の分離問題に動く。

1950 昭和25年

3月27日　逗子町分離のための県会議決を勝ち取るために、町内の組合などが一丸となる。

5月1日　県議会「横須賀市区域変更に関する特別委員会」で、住民の意思の尊重と独立を結論とし、逗子町の独立が可決される。

7月1日　逗子町が横須賀市から分離独立。

7月23日　荒井友三郎氏が町長に就任する。

この年朝鮮戦争、特需景気はじまる。

1952 昭和27年

4月1日　地元の運動が実を結び、国鉄東逗子駅ができる。

1953 昭和28年

7月26日　町長荒井友三郎が箱根で遭難死。

9月13日　山田俊介氏が町長に就任する。

1954 昭和29年

4月15日　市制施行（人口37,800人）横須賀市から分離して県下9番目、全国第384番目の市となる。初代市長山田俊介氏の掲げた合言葉は「長靴のいらない町づくり」。

船越へ抜ける沼間トンネルに並んで、新沼間トンネルが開通する。

1955 昭和30年

4月1日　逗子信用農業協同組合（現神奈川県信用組合）が東逗子駅前に支店を開設する。

5月31日　小坪にゴミの処理能力が毎日11トンの塵芥焼却炉（現清掃センターの前身）が完成する。

11月1日　市立逗子高等学校（旧逗子実科高女）が県立逗子高等学校になる。

1956 昭和31年

1月28日　石原慎太郎「太陽の季節」が第1回文学界新人賞を受賞、3月には第34回芥川賞を受賞する。

1956 昭和31年

8月3日　なぎさ通りに逗子名画座が開館する。逗子市内の映画館はこれで当時4館となった。
8月　逗子海岸200万人の人出となる。
10月31日　30日夜来の記録的な豪雨で、市内各地で浸水が起こる。(死者1、床上浸水348)

1957 昭和32年

1月15日　市教育委員会主催の成人式を初めて行なう。
5月14日　池子踏切で横須賀線と米軍トラックが衝突脱線。重軽傷18名を出す。
7月21日　逗子海岸で第一回海上ページェントが開催される。
東逗子駅北側の山を崩し、大洋漁業社宅が建設される。(逗子での団地開発のはしりか)

1958 昭和33年

3月30日　市役所庁舎が増築される。
6月7日　市立披露山公園が開園。
6月10日　久木中学校が新築される。

1959 昭和34年

1月　逗子沖縄寮大火で、49世帯、199人が被災。
4月1日　国民健康保険を実施。県立逗子高校が男女共学になる。
9月　伊勢湾台風が上陸する。

1960 昭和35年

1月　教育委員会主催で、横須賀市と共同の「第1回市民スキー学校」を蔵王で開催する。
4月　鷹取山に石仏彫刻がはじまる。
9月　カラーテレビの放送が開始される。
11月15日　消防庁舎が完成する。

1961 昭和36年

2月10日　市道逗子駅田越橋線が開通する。
4月23日　逗子電信電話局が落成し、電話が自動化になる。火災・救急専用電話として「119」番が設置される。
6月28日　集中豪雨で全市の18%が浸水(床上浸水1636戸)し、「災害救助法」が適用される。

1962 昭和37年

10月24日　消防署に大型消火器を積載した消防自動車が配置される。

1963 昭和38年

7月15日　消防署に救急車が配置される。
神武寺トンネルが開通し、沼間と池子が結ばれる。

1963 昭和38年

小坪亀ヶ岡団地など、大規模な宅地開発が始まる。
葉山町との合併を試みたが、失敗に終わる。
11月15日　沼間小学校入口に、市内初の交通信号機が設置される。

1964 昭和39年

3月9日　し尿処理場が完成する。
4月29日　逗子青年会議所が設立される。
9月15日　逗子市民体育館が完成する。
10月8日　湘南有料道路(現国道134号線)の鎌倉～逗子間が開通する。
東京オリンピックのヨット競技が逗子湾沖で開催される。
小坪西海岸の埋め立てが認可される。
11月　久木新道が開通し国道134号線となる。

1965 昭和40年

4月　ダストボックスによる塵芥処理方式が採用される。
5月1日　新しい住居表示が実施される。
12月20日　大崎公園が開園される。
高度経済成長期に入り、池子アザリエ・沼間興人住宅など、大規模な宅地開発が始まる。

1966 昭和41年

4月1日　全市下水道化をめざした下水道工事が始まる。
4月11日　名越切通しの主要部が国の史跡に指定される。
6月19日　市立図書館が完成する。
11月24日　逗子郵便局が新築される。
12月20日　市道沼間池子線が開通する。

1967 昭和42年

2月5日　久木ハイランド開発工事着工。
2月8日　逗子市池子接収地返還促進市民大会が開催される。
6月9日　小坪湾の埋め立て工事が開始される。(現逗子マリーナ地区)
8月　この年海水浴場は235万人を超える最高の人出で賑わう。

1968 昭和43年

4月20日　披露山公園続きの宅造(披露山TBS団地)工事着工。
5月17日　消防小坪分署が開設される。
12月10日　市役所分庁舎(現図書館分室)が完成。

1943－1994

逗子市の年表 2

わが家の年表

1969	アポロ11号月面着陸
1970	大阪万博
1971	
1972	あさま山荘事件・オイルショック
1973	
1974	長島茂雄引退
1975	ベトナム戦争終結
1976	
1977	新幹線岡山ー博多間開通
1978	
1979	
1980	
1981	
1982	
1983	TDL開園
1984	
1985	
1986	伊豆大島三原山の大噴火
1987	
1988	
1989	昭和天皇崩御
1990	
1991	
1992	
1993	
1994	

1969 昭和44年

6月9日　沼間グリーンヒル工事着工。
7月1日　山田俊介市長死去（8日市葬が行なわれる）。
8月18日　高橋鯛蔵氏が市長に就任する。
9月　中村キヌ氏が逗子市初の婦人副議長になる。
12月12日　逗子高校の鉄筋4階建校舎が落成する。

1970 昭和45年

1月　池子1丁目に逗葉医師会の日曜、夜間診療の公衆衛生センターが完成する。
4月　有料道路逗葉新道が開通する。
4月27日　小坪埋立地に逗子マリーナの建設工事開始。
7月15日　桜山イトーピア団地工事着工。
10月14日　福祉会館が完成する。
12月5日　持田遺跡試掘で、弥生中期の大型甕、壷、古墳前期の碧玉製石釧、祭祀具などが大量に出土する。

1971 昭和46年

市の人口が5万人を突破する。

1972 昭和47年

4月1日　鐙摺埋立地に浄水管理センター（終末処理場）が完成する。
4月14日　小坪保育園が開園する。
4月16日　ノーベル賞作家の川端康成が逗子マリーナでガス自殺する。
12月　池子接収地の一部返還が達成される。（現第一運動公園の区域）

1973 昭和48年

2月　逗子海岸駅前の東映閉館で、逗子に映画館はなくなる。
4月5日　逗子警察署が完成する。
4月6日　遊休化していた米軍池子弾薬庫に砲弾が輸送される。
5月13日　桜山に県立逗子青少年会館が開館される。
8月17日　三島虎好氏が市長に就任する。
この年、逗子銀座通りにアーケード。

1974 昭和49年

4月1日　池子小学校、逗子小学校内に開校。6月14日現在地に校舎が落成し、移転する。
4月15日　市制施行20周年。都市宣言は「青い海とみどり豊かな平和都市」。市民からの公募により、市の木は「つばき」に決定する。
9月15日　二子山自然遊歩道が整備される。

1975 昭和50年

6月5日　田越川に鯉が放流される。
10月10日　第12回国勢調査。市の人口56,298人。
12月6日　社会教育会館が完成する。

1976 昭和51年

5月30日　環境づくり市民のつどいが開催される。「クリーン逗子」を宣言する。
8月5日　私立聖和学院がインターハイ女子バレーボールで初優勝する。

1977 昭和52年

4月16・17日　第一回逗子市民まつりが第一運動公園で開催される。
10月29日　米軍池子弾薬庫の久木地区の一部返還が決まる。（現久木小・中学校共同運動場）

1978 昭和53年

4月1日　県立逗葉高等学校が開校（当初は追浜高校内で、翌年逗子市桜山の現在地に移転）する。
7月12日　池子弾薬庫が無人になる。返還を迫ったが、米軍当局は「当分は資材置場として使用する」と答え市民を落胆させる。
8月4日　市議会が、池子弾薬庫の全面返還要求決議を可決。
10月1日　桜山保育園が完成する。

1979 昭和54年

3月　粗大ゴミ処理施設（破砕機）が落成する。5時間で30トンの処理能力を発揮する。
4月1日　消防北分署が開設される。
11月27日　明治の文豪・徳富蘆花の縁で、群馬県伊香保町と姉妹都市になる。

1980 昭和55年

5月10日　池子弾薬庫に1000戸以上の米軍住宅を建てるという計画が公表される。
8月　逗子署管内の死亡交通事故ゼロ記録が、522日でストップする。
11月1日　クリーン逗子のシンボルマークが決まり、発表される。
12月29日　逗子開成高校山岳部生徒が北アルプスで遭難する。

1981 昭和56年

7月1日　第一運動公園に50mプールが完成する。
11月2日　障害者作業指導所が完成する。
11月26日　日量140トンの清掃工場が完成する。（現環境クリーンセンター）

1982 昭和57年

4月　横浜横須賀道路の朝比奈～逗子間が開通する。
7月　第一回海上ファッションコンテスト・花火大会が開催される。
8月　米軍池子弾薬庫に米軍住宅建設計画が具体化する。
12月16日　逗子商工会館が沼間1丁目に完成する。

1983 昭和58年

1月　第30回逗子市内一周駅伝大会が開催される。
4月27日　池子大池の70%を埋め立て、逗子市老人福祉センター（現高齢者センター）が完成する。

1984 昭和59年

市制施行30周年。
3月30日　小坪公民館が完成する。
4月15日　市民からの公募により、市の花は「ほととぎす」に決定する。
5月13日　「スポーツ都市」宣言。
7月8日　米軍住宅をめぐり市長リコール運動起こる。
7月23日　新市庁舎が完成する。
7月24日　特別老人ホームせせらぎ・郷土資料館・青少年野外教育センター（現野外活動センター）・徳富蘆花記念公園が完成する。
10月8日　三島虎好市長辞職。
11月11日　富野暉一郎氏が市長に就任する。

1985 昭和60年

この年65歳以上のお年寄りの総人口に占める割合は、12.43%で県内一の高齢となる。
この年下水道普及率も66.38%で県内一。
3月2日　京急逗子駅、逗子海岸駅を廃し、急行8両編成の入る新逗子駅が開業。
11月29日　神武寺薬師堂と棟札3枚が、県重要文化財に指定される。

1986 昭和61年

3月23日　富野暉一郎市長のリコール投票で解職不成立に終わる。
3月30日　3月2日の議会リコール投票成立により出直し市議選挙。米軍住宅建設反対派が得票数で受入容認派を上回るが、議員数では下回る。
この年米軍家族住宅建設計画の一部住宅受け入れを知事が表明する。
この年下水道普及率は、69.44%で横浜市に次ぎ県内第二位に。

1987 昭和62年

9月30日　防衛施設庁、池子米軍家族住宅建設着工を強行。池子ゲート前でもめる。
12月17日　池子米軍家族住宅建設計画地内の埋蔵文化財の分布調査開始。

1988 昭和63年

この年下水道普及率は73%になる。
2月　米軍家族住宅建設の中止を求める女性等67人が「セーブ・イケゴ・ツアー」で渡米する。
5月28日　沼間公民館が開館する。
6月10日　沼間アーデンヒル造成工事完了。

1989 昭和64年 平成元年

1月15日　なぎさホテル廃業となる。
4月1日　沼間中学校が開校する。
5月9日　神奈川県が横浜防衛施設局から提出された環境アセスメント変更届を承認する。
9月19日　防衛施設庁は、縦覧を経て、工事に着手する。

1990 平成2年

1月25日　「自然と人のおりなす快適環境とさわやかなヒューマンコミュニケーションのまち」を都市像とする、逗子市基本構想が策定される。
4月　徳富蘆花文学碑、青少年野外教育センター(現野外活動センター)に建つ。
この年逗子市の藤原喜一さんが109歳で男性長寿日本一になる。
この年「池子米軍家族住宅建設に反対し、旧池子弾薬庫跡地の即時全面返還を求める意見書」が市議会で可決される。

1991 平成3年

1月　大崎公園に泉鏡花文学碑が建つ。
4月1日　逗子市情報公開条例が施行される。
8月26日　株式会社パブリックサービス設立。
11月　浪子不動の下にさくら貝の歌の歌碑が建つ。
10月　東逗子に大型スーパーマルエツ進出。

1992 平成4年

3月　新消防庁舎が完成する。
4月1日　逗子市個人情報保護条例が施行される。
7月　デイサービスセンターが完成する。
8月　清水橋南駐輪場が完成する。
9月1日　逗子市の良好な都市環境をつくる条例が施行される。
11月11日　澤　光代氏が市長に就任する。
12月　浄水管理センターに国木田独歩文学碑が設置される。

1993 平成5年

6月1日　逗子駅裏西に駐輪場が完成する。
6月　桜山公園にアスレチック設備など整備。

1994 平成6年

4月1日　澤市長、米軍家族住宅の建設受入れを表明。
4月16日　市制施行40周年記念式典。

逗子の主な公共施設 TOWN PAGE

市役所	逗子5-2-16	73-1111
市民体育館	逗子4-2-3	71-5302
図書館	逗子4-2-10	71-5998
図書館分室	逗子4-2-10	73-7270
郷土資料館	桜山8-2275	73-1741
野外活動センター	桜山8-13-6	73-1742
披露山公園	新宿5-4-1	71-4941
第一運動公園	池子1-22	73-8580
小坪公民館	小坪5-21-17	0467-24-6204
沼間公民館	沼間3-16-32	72-2449
県立青少年会館	桜山5-20-29	73-2018
逗子中学校	池子4-755	73-2056
沼間中学校	沼間3-21-2	71-5200
久木中学校	久木7-2-1	73-2058
逗子小学校	逗子4-2-45	73-2050
小坪小学校	小坪3-6-1	0467-25-1206
久木小学校	久木2-1-1	73-2054
池子小学校	池子3-9-1	73-2070
沼間小学校	沼間1-7-18	73-2052
小坪保育園	小坪5-22-5	0467-22-3435
湘南保育園	池子2-11-9	71-2838
逗葉地域医療センター	池子1-6-11	73-7752
高齢者センター	池子4-1012	73-2531
福祉会館	桜山5-32-1	71-8446
保健センター	桜山6-18-22	73-8333
障害者作業指導所	小坪5-22-10	0467-23-3155
逗子ホームせせらぎ	池子3-784	73-2584
環境クリーンセンター	池子4-956	71-7870
浄水管理センター	桜山9-2448-4	72-0192
小坪漁業振興センター	小坪5-20-4	0467-25-4505
商工会館	沼間1-5	73-2774
県水道局逗子営業所	山の根3-4-2	73-6746
消防本部	桜山2-3-31	71-4325
消防小坪分署	小坪5-21-4	0467-25-4505
消防北分署	池子1-1-1	73-6746
逗子警察署	桜山4-8-41	71-0110

市制40周年を記念して、こんな記念行事・事業を行なっています。

40周年を祝うさまざまなイベントは、市民のボランティアによって実行委員会の各部会が中心となって企画され、実施されています。

記念式典

開催日：4月16日（土）
場　所：逗子市民体育館

市制40周年記念式典は、平成6年4月16日、逗子市民体育館で行なわれました。多数の市民や関係者、近隣市町村からお祝いにきてくださった方々などが参加して開かれた式典は、市長も来賓も高い段の上からでなく、参加者と同じ位置に並んで出席し挨拶する、というユニークな演出で進行しました。また、来賓挨拶も簡素化したり、おきまりの紅白の幕でなくたくさんの花で会場を飾りました。

市内各団体のご協力をいただき、アトラクションも市民参加で、小さなバイオリニストたちの演奏で幕を開け、華やかな市民コーラスが盛り上げたプログラムの終わりには、大きな画面に映し出された、次代の逗子をになう子供たちのイメージによる「逗子の未来図」が紹介されました。

（式典運営部会）

記念講演

テーマ：「人とまちと自然の調和」
講　師：野村佳子先生
開催日：4月16日（土）
場　所：逗子市立図書館ホール

野村生涯教育研究センターの野村佳子理事長に、生涯教育を推進する立場から、今回のテーマ「人とまちと自然の調和」にそって、記念講演をお願いしました。

「人間社会における政治・経済・教育の諸機能において、人間がその担い手であるならば、人間教育はその原点である。一般的に教育とは学校教育と考えがちだが、人生の最初の教師はその生命を生み育てた親、特に母親である。

『生涯教育』とは、人間が受胎・誕生から老年期・死までの一生を通して、真の知育・徳育を身につける意味での教育で、今回のテーマ『人とまちと自然の調和』は『人（人間）とまち（社会）と自然（地球環境）の調和』であり、これこそ生涯教育の理念とするところである。

なぜ、今、『生涯教育』が必要とされるのか。その基本理念において、家庭、学校および社会の有機的連帯のもとに人間形成をはかり、自己教育を通し相互教育をはかりつつ、地球的レベルの連帯にまで拡大することによって、人間復活の教育が確立される。さらに、今世界が模索している人類共存の文化の創造がなされることを確信している。」

このようなお話を、具体的な事例をまじえて提唱されました。

講演の後の質疑応答も活発に行なわれ、共感共鳴された同意見もつぎつぎ飛び出して、予定時間を大幅に超過しましたが、盛会裡に終了しました。

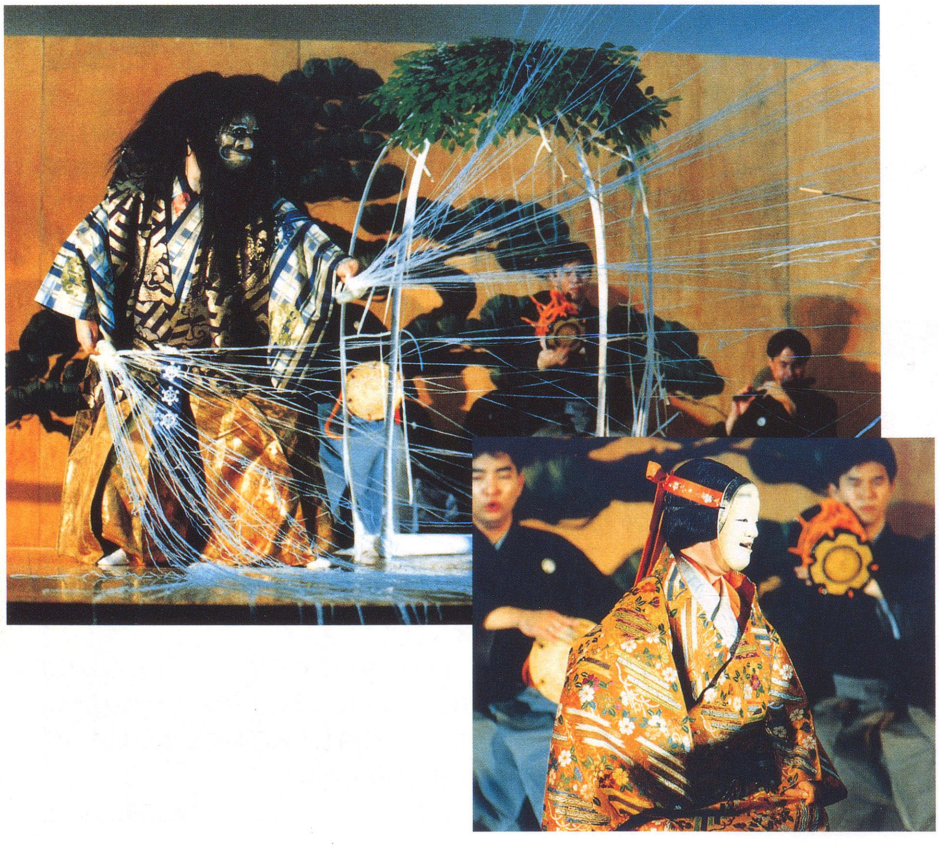
（記念講演部会）

シーサイドフェスティバル

開催日：5月5日（木）8日（日）
場　所：逗子海岸特設ステージおよびその周辺

逗子には海があります。この海を舞台に市民みんなで楽しめる記念事業を、と企画されたのが、この海のそばのお祭りでした。海岸に設けられた特設ステージでは、市民有志の参加によるさまざまなパフォーマンスが繰り広げられました。また、会場に張られたテント村では、やきそばなどの屋台の店もたくさん並んで、楽しさを盛り上げました。これは、逗子市青少年指導員連絡協議会の「こどもの日のつどい」との共催で行なわれました。

（団体事業部会）



逗子能

財団法人梅若会　逗子公演
開催日：６月11日（土）
場　所：逗子市民体育館

日本古来の文化の伝承を受け継ぐ、能の公演がようやく「逗子能」として実現し、1200人の観衆を魅了しました。サーフ21協議会とのジョイント事業として行なわれた「逗子能」は、能楽師梅若六郎主宰の梅若会の好意と助力によるもので、会場など必ずしも恵まれた環境条件とはいえないなかにもかかわらず、観るものに大きな感動をあたえました。

当日の演目のなかでは「土蜘蛛」がもっともポピュラーなものでしたが、鮮やかな演出もあって、みごとな舞台となりました。全国では200以上もの公演が行なわれているそうですが、このような静かな情緒ある能の雰囲気と魅力が、これを機会に逗子にも根ざしていければ、非常に意味が深いものがあります。

（サーフ21部会）

記念パレード

開催日：5月8日（日）
場　所：逗子市役所前～銀座通り～逗子海岸～中央ステージ

午前10時から纏（まとい）と木遣りを先頭に、市内18団体の32グループから708人が参加して市民手づくりの記念パレードが行なわれました。

逗子音頭や明治から現代までの郵便配達の変遷を示した仮装行列、バトンとチアーの華麗な演技、花自動車などを交え、高齢者から子どもたちまで楽しくなごやかな行進が繰り広げられました。パレードの終点の海岸のステージでは参加各グループの設立の趣旨と活動状況が紹介されました。

（イベント部会）

第１回シンポジウム

テーマ：逗子の未来「10代の意見」
講　師：丸山浩路氏
開催日：6月19日（日）
場　所：逗子市立図書館ホール

去る6月19日、40周年記念のコンセプト『人とまちと自然の調和』にちなんで、第1回シンポジウムは、「逗子の未来『10代の意見』」というテーマで、図書館ホールで開かれました。

基調公演は丸山浩路氏にお願いし、『出会い、ふれ愛、感動、そして今何かが生まれる！』というテーマで、熱意溢れるお話しをしていただきました。

引き続いて10代のパネラー4人とともに、近未来の逗子はどうあるべきかについて、熱心で活発な意見交換が行なわれました。

（シンポジウム部会）

逗子・夢の未来図

小・中学生から公募
記念式典でも発表

次の逗子をになう若い世代は、逗子のまちにどんな期待と夢と予測を抱いているのでしょうか。

市内の小学校・中学校の児童生徒のみなさんに、逗子の夢の未来図を、一枚の画用紙に託して、自由に表現してもらいました。

審査の結果、力作ぞろいの応募作品の中から、選ばれた入賞作品は、記念式典でもスライドで紹介発表され、市役所ホールでは応募作品の展示が行なわれました。

（最優秀作品は裏表紙に紹介しています。）

（50周年提言部会）

記念洋上体験乗船

開催日：７月27日（水）
場　所：逗子マリーナおよび小坪マリーナ周辺の海

「海に学ぶつどい」は、湘南海上安全協会、逗子マリーナ、小坪マリーナの協力とマリーンスポーツ財団、日本マリーナ・ビーチ協会の後援をえて、市内の小中学生と姉妹都市伊香保町子供リーダー研修会一行も加わって、130人が参加しました。学習のあと、大型モーターボート4隻に分乗、猛暑を吹き飛ばす快適なクルージングを楽しみました。

（イベント部会）

市民まつり

開催日：10月23日（日）雨天の場合30日に順延
場　所：第一運動公園

第18回を数える恒例の市民まつりも、今年は市民まつり実行委員会に市制40周年記念事業実行委員会の市民まつり部会が参加し、40周年の記念イベントをかねるお祭りとして、企画・参加する予定です。

例年のとおり、第一運動公園内の野球場内、特設ステージ、自由運動広場、ふれあい広場などでは、みんなが参加できるゲームや腕くらべ競技、バンド演奏やショーなど盛りだくさんな催し、いろいろな楽しい出店などが予定されています。

多くの方々に楽しんでいただけるように、市民まつり部会では子供御輿を作製するなど、まつり全体をイメージアップし盛り上げるためにさまざまな工夫を凝らして、みなさんのご参加をお待ちしています。

（市民まつり部会）

ウォークラリー

開催日：11月27日（日）
予備日12月４日（日）
場　所：逗子市内

子供たちを対象に行なわれる、市内の隠れた名所旧跡を含むコースをめぐる、ウォークラリーです。楽しみながら、地域の歴史にふれるこの野外学習行事は、逗子市子ども会連絡協議会、逗子ガールスカウトとの共催で行なわれているものですが、今年は市制40周年記念事業の一環として「逗子再発見」をテーマに実行委員会も共催します。

不如帰の碑を含むコースが予定されています。20歳以上の大人が１人以上入っている５人前後を１チームとして参加をお願いします。

（継続事業部会）

記念駅伝

開催日：平成７年１月８日（日）
場所：逗子市内一周

今年で42回を数える、伝統の市内一周市民駅伝は、例年逗子市教育委員会と逗子市体育協会の主催、逗子市陸上競技協会の主管行事として行なわれています。

この歴史ある行事も、今回は市制40周年記念駅伝として実施される予定です。第一部は地区対抗、第二部はグループ対抗です。平均４キロメートルの区間を６人の選手で市内をリレーします。多くの皆さんの参加と応援をお願いします。

「不如帰」の碑の調査

テーマ：「不如帰」の碑の調査

実施期間：10月

逗子の名を一躍全国的に有名にした、徳富蘆花の小説「不如帰」。

昭和８年の逗子町制20周年には、町民の寄付により「不如帰」の碑が建てられました。

今回、市制40周年を記念し、記念事業実行委員会では、この碑を調査します。

この碑に用いられている「石」について、一説では、鍋島藩が江戸城修復のために伊豆の石材を運んでいる途中、嵐にあってこの付近で難破し沈んでいたものを引き上げて、石碑にしたとされています。しかし、その確かなところがわからないため、専門家と小坪漁業組合とボランティアのダイバーにより、海底に残る他の石の調査を行なっています。

（継続事業部会）

第２回シンポジウム

テーマ：「子供とスポーツ『子供のためのスポーツ環境とは？』」
講　師：輪嶋直幸氏
開催日：9月18日（日）
場　所：逗子小学校体育館

第2回目のシンポジウムは、NHK満点体操でお馴染みの、輪嶋直幸さんにお話ししていただきました。「子供とスポーツ『子供のためのスポーツ環境とは？』」と題し、いろいろなトレーニング法を交え　楽しい一時を過ごしました。（シンポジウム部会）

50周年提言書

40周年は長い歴史の通過点であり次の50周年へ向けての始まりでもあります。

今のまちづくりについての市民の声を認識したうえで、21世紀へ向けての理想的なまちづくりを、さまざまな視点から考え、提言していこう—それらを「50周年へ向けての提言書」にまとめる計画が、来春刊行の予定で進んでいます。

（50周年提言部会）

40周年記念誌Z-MAP

これがそうです

40周年を記念する刊行物として、広く市民のみなさんと地域社会を結びつけるのに役立てていただけるようなものを、ということで企画編集してみました。

逗子に住んでいながらあまりよく知らない、という人も多いようなので、私たちのこの小さなまちを、できるだけすみずみまで見てみよう、もっと地元のことをよく知りたいというとき役に立つ、逗子の歴史と地図のZ-MAPです。

（記念誌部会）

逗子電車時刻表

（平成6年9月現在）

JR横須賀線 逗子駅

上り（横浜・東京・千葉方面）

時	平日（月曜～金曜）	土曜・休日
4	53東	53東
5	12空● 31千● 47千●	12空● 31千● 46千●
6	02● 15千● 23千● 31● 38千● 45● 52千○ 58●	01● 15千● 23千● 32● 39千● 47●
7	05空鹿● 11宮● 18千● 23○ 27千● 34● 40千● 50大● 58東●	00空鹿● 08宮● 18千● 30東● 33○ 43君● 50大●□ 55東●
8	03ラ東○ 07空● 14● 22東● 31東□ 39木 47千□ 53船	04空● 16● 30● 42千● 54
9	05千○ 12空 24千○ 31 40君○ 44船● 52千□ 57船	08千● 13空□ 24船 34○ 42君● 59空
10	05空 16千□ 27 36千 50●□	15空□ 26千 33船● 49□
11	04船 13□ 28□ 40 54千	06空鹿 26千□ 39千●
12	12大 24千□ 37君 53東□	00空□ 21千 36君● 54□
13	08空□ 20千 32□ 40千 53大□	09千□ 22東 40東 54大□
14	09千●□ 23千 36 49千□	10東□ 21千 35東 50千□
15	00 11空□ 23千 33木● 44東□ 52大●	00 08東□ 19千● 25千○ 34木□ 51大○
16	09千●□ 17● 24東●□ 34千● 46● 56宮勝○	06空● 12□ 24千●□ 32● 45● 56宮勝●
17	05空原●□ 11千● 19東●○ 25大□ 32千● 39君● 46東● 56宮●○	10東● 18千● 26大□ 32東 40君● 48東● 55宮○
18	08空● 16●○ 24東 36君● 49千● 59千●	08東 16○ 26東● 38君○ 47宮● 59東
19	10空● 21千● 35千● 49千●	10空● 22千● 35千● 47千●○ 55船●
20	02千○ 06船 12千● 21● 34佐● 44千● 53千	05東 22千 36佐● 44千●○ 53千●
21	05千● 15千 26● 33佐 44船● 51千●	08千 18千● 26千 35佐 42船 52千●
22	03千● 16千● 35東● 48船	03千● 16● 28船● 36千● 50船●
23	00千● 10東 34品●	02千● 10東 34品●
24		

下り（横須賀・久里浜方面）

時	平日（月曜～金曜）	土曜・休日
4		
5	27▲ 45須○ 58	27▲ 45須○ 59
6	05須 12 27須▲ 38 53須▲	06須 13 28須▲ 38 55▲
7	01 09須▲ 19 29須▲ 37▲ 47須▲ 53	09 23 42○▲ 55○▲
8	04 18▲ 28須△ 39▲ 55▲	07▲ 20▲ 33▲ 52▲
9	10△ 18須 29▲ 45△	09△ 25▲ 41△○ 50須▲
10	00△○ 14△ 28○ 41○ 52○	00△ 14△○ 30○ 53○ 59須▲
11	00須▲ 07○ 23○ 41▲	08○ 20○ 36
12	03○ 20○ 35 50△	00○ 21○ 36 49○
13	01○ 18○ 38 48○	02○ 17○ 32 47○
14	03○ 15○ 37○ 59○	01○ 15○ 36△○ 40須△ 59○
15	12○ 23△ 37○ 56○	11○ 17須▲ 30○ 42 55▲
16	11○▲ 24○ 38 49	11○ 23○ 35▲ 42須▲ 51▲
17	05須▲○ 12 27須○ 35▲ 50	00須 14○▲ 26須○ 35▲ 53▲
18	03 16▲ 24須 33▲ 44▲ 52須▲	08▲ 20▲ 32▲ 43須
19	01▲ 15 23須▲ 33▲ 47▲	01▲ 19 32▲ 47▲
20	00 08須▲ 18▲ 33 44須▲ 51▲	02▲ 17 35 44須▲ 53▲
21	02須▲ 09▲ 18須▲ 30○▲ 43○▲	02須▲ 09▲ 17須 28▲ 41 53須▲
22	02▲ 13▲ 27▲ 37須 46▲	03▲ 16 29▲ 37須 46▲
23	00▲ 15▲ 24▲ 34▲ 52▲	00 16▲ 31▲ 41▲ 53▲
24	09▲ 28▲	10▲ 28

上り

君‥君津行　船‥大船行
品‥品川行　木‥木更津行
千‥千葉行　宮‥上総一ノ宮行
大‥大原行　空‥成田空港行
東‥東京行　鹿‥鹿島神宮行
原‥佐原行　無印‥津田沼行
勝‥勝浦行　○‥2番線発車
佐‥佐倉行　●‥後4両増結
八‥八街行　□‥3番線発車
成‥成田行　その他は1番線発車

下り

無印‥久里浜行
須‥横須賀行
▲‥前4両切り離し
△‥前4両久里浜方面行
○‥2番線発車その他は3番線発車

JR横須賀線 東逗子駅

上り（横浜・東京・千葉方面）

時	平日（月曜～金曜）	土曜・休日
4	46東	46東
5	05空 24千 39千 54津	05空 24千 38千 53津
6	08千 16千● 24津 31千● 38津 51津 58空鹿●	08千 16千● 25津 32千● 40津 51空鹿
7	04－11千 20千● 27津 33千 42大● 50東 58空●	00●08千 22東 35君 48東 55空
8	07津 17東● 32木 44千 (49)船●	08津 20津 33千 47津
9	05空 22津 37船 50船● 57空	01千 17船 35君 51空
10	(11) 27千 (41) (54)	(07) 18千● 26船 (42) (57)
11	(08) (20) 33津 44千● (49)	(08) (21) 32千● (46)
12	(07) 29君 (46)	(04) 27君 (48)
13	(02) (19) 30千 (48)	(02) (17) 32東 (48)
14	(03) (16) 29津 (45)	(02) (15) 28東 (45)
15	(04) 25木 (38) (52)	(02) 11千● (25) (41) (55) 59空●
16	(12) (25) 37津 (50)	(11) (24) 38津 49大勝
17	04千 (19) 31君● 38東 (48)●	03東 10千● (17) 32君● 40東 (48)●
18	01空 16東 29君 42千 51千●	01東 19東 38－50東●
19	00空 13千 28千 42千 59船	00空 13千 27千 45船 58東
20	05千● 13津 26佐 36千● 45千 58千	14千 28佐 44千
21	08千● 17津 26佐● 35船 44千● 56千	01千 11千● 18千 27佐● 35船 45千● 54千
22	09千 28東 40船 53千	09津 21船● 29千 42船 55千
23	03東● 27品	03東● 27品
24		

下り（横須賀・久里浜方面）

時	平日（月曜～金曜）	土曜・休日
4		
5	29 47須	29 47須
6	00 08須 14 30須 40 56須	01 09須 16 30須 41 57須
7	03 11須 21 31須 39 49須 56	11 25 45 57
8	06 21 (30)須 41 57	10 22 35 54
9	(12) 20須 31 (48)	(11) 27 (43) 52須
10	(03) (17) (30) 43 (54)	(02) (17) (32) (55)
11	03須 (10) (25) 43	01須 (10) (23) 38
12	(05) (22) 37 (52)	(02) (24) 39 (51)
13	(04) (21) 40 (50)	(04) (19) 34 (50)
14	(05) (18) 39	(04) (17) (38) 42須
15	(01) (14) (25) 40 (59)	(02) (13) 20須 (32) 44 57
16	14 (27) 40 51	13 (26) 37 44須 54
17	07須 15 (29)須 38 52	03須 16 (28)須 38 55
18	06 19 26須 36 46 54須	10 22須 35 45
19	04 18 25須 35 49	03 22 34 49
20	03 10須 20 35 47須 54	04 20 37 47須 55
21	05須 11 21須 32 46	05須 12 19須 31 44 55須
22	05 15 30 39須 48	06 19 31 39須 48
23	03 17 27 36 54	03 18 33 43 55
24	11 30	12 30

上り

君‥君津行　木‥木更津行
品‥品川行　津‥津田沼行
千‥千葉行　空‥成田空港行
大‥大原行　一‥上総一ノ宮行
東‥東京行　大勝‥大原・勝浦行
佐‥佐倉行　空鹿‥成田空港・鹿島神宮行
八‥八街行
成‥成田行　無印‥逗子行
船‥大船行　●‥横須賀始発
勝‥勝浦行　（）‥逗子で東京方面に連絡

下り

無印‥久里浜行
須‥横須賀行
（）‥4両編成グリーン車なし

京浜急行 新逗子駅

上り（横浜方面）

時	平日（月曜～金曜）	土曜・休日
5	14ハ● 37ハ● 54ハ●	14ハ● 43ハ●
6	04カ● 13カ● 23カ● 30カ● 40タ● 50タ●	02ハ● 13ハ● 28(カ)ブ● 39品● 49(カ)ブ● 59品●
7	00タ● 10ブ● 20タ● 31カ● 43カ● 50ブ● 58カ●	09(カ)ブ● 19品● 29(カ)ブ● 39品● 49(カ)シ● 59品●
8	11シ■ 19品● 30シ● 38ブ▲ 50シ●	09(カ)ブ● 21シ● 32ブ● 43(カ)ブ● 55ブ●
9	02シ▲ 17千● 27ブ▲ 36ブ● 44シ▲ 56ブ●	02カ▲ 12ブ● 23カ▲ 32ブ● 43カ▲ 50ブ●
10	04シ▲ 15ブ● 23シ▲ 34ブ● 43シ▲ 51ブ●	03カ▲ 10ブ● 23カ▲ 30ブ● 43カ▲ 50ブ●
11	03シ▲ 10ブ● 23シ▲ 30ブ● 43シ▲ 50ブ●	03カ▲ 10ブ● 23シ▲ 30ブ● 43シ▲ 50ブ●
12	03シ▲ 10ブ● 23シ▲ 30ブ● 42シ▲ 49ブ●	03シ▲ 10ブ● 23シ▲ 30ブ● 43シ▲ 50ブ●
13	03シ▲ 10ブ● 22シ▲ 29ブ● 42シ▲ 49ブ●	03シ▲ 10ブ● 23カ▲ 30ブ● 43カ▲ 50ブ●
14	02シ▲ 09ブ● 23シ▲ 30ブ● 43シ▲ 50ブ●	03カ▲ 10ブ● 23カ▲ 30ブ● 43カ▲ 50ブ●
15	03シ▲ 10ブ● 23カ▲ 32ブ● 40カ▲ 50カ● 59カ●	03カ▲ 10ブ● 23カ▲ 30ブ● 43カ▲ 50ブ●
16	09カ▲ 19カ● 29カ▲ 42カ● 52カ▲	03カ▲ 10ブ● 23カ▲ 30ブ● 43カ▲ 50ブ●
17	03カ● 12カ▲ 23カ● 32カ▲ 43カ● 53カ●	03カ▲ 11ブ● 23カ▲ 31ブ● 43カ▲ 51ブ●
18	03シ▲ 14シ● 24シ▲ 30シ● 40カ▲ 50カ●	03(シ)ブ▲ 11ブ● 23(シ)ブ▲ 31ブ● 43(シ)ブ▲ 51ブ●
19	01カ▲ 11カ● 21カ▲ 31ブ● 40ブ▲ 51ブ● 58ブ▲	03(シ)ブ▲ 11ブ● 23ブ▲ 31ブ● 43ブ▲ 51ブ●
20	07ブ● 18ブ● 27ブ● 37ブ● 43ブ▲ 53ブ	02ブ▲ 11ブ● 22ブ▲ 31ブ● 42ブ▲ 51ブ●
21	03ブ▲ 11ブ● 22ブ● 31ブ● 43ブ● 50シ	03ブ 14ハ● 24ハ 34ハ● 44ハ 53ブ●
22	01ブ● 09ハ● 20ハ 32ハ 47ブ 59ハ（高砂品大空三崎終接）	02ハ 12ハ● 27ハ（空終接） 36ハ 53ブ（大高砂終接）
23	24ハ（シ終接） 45ハ（三浦ブ終接）	02ハ（品三崎終接） 25ハ（シ終接） 45ハ（三浦ブ終接）
24	07ハ（浦終接） 28ハ終（久終接）	07ハ終（浦終接）

カ‥京急川崎行　タ‥高砂行
シ‥神奈川新町行　ア‥青砥行
ハ‥金沢八景行　セ‥泉岳寺行
ブ‥金沢文庫行　品‥品川行
千‥千葉ニュータウン中央行
■‥金沢八景で通勤快特に接続
●‥金沢八景で特急に接続
▲‥金沢文庫で快特に接続
急行（急行は逗子線内各駅に停車します）

神武寺駅の上りは新逗子の時刻にプラス約2分

京浜急行 神武寺駅

下り（新逗子方面）

時	平日（月曜～金曜）	土曜・休日
5	06 30 47 56	06 31 52
6	04 14 23 33 41 52	04 18 30 40 53
7	02 12 22 32 43 52	02 12 22 33 43 53
8	01 12 20 31 43 56	03 15 24 37 46 57
9	05 17 27 37 47 57	06 17 25 35 43 55
10	08 15 25 36 44 52	03 14 23 34 43 54
11	03 12 23 32 43 52	03 14 23 34 43 54
12	03 12 23 32 43 52	03 14 23 34 43 54
13	03 12 23 32 43 52	03 14 23 34 43 54
14	03 12 23 32 43 52	03 14 23 34 43 54
15	03 12 23 32 43 52	03 14 23 34 43 54
16	02 12 22 33 43 53	03 14 23 34 44 55
17	03 12 24 36 46 57	05 15 25 35 43 51
18	08 18 30 40 50	03 11 23 31 43 51
19	01 11 21 31 41 51 59	03 11 23 31 43 51
20	09 19 27 37 45 57	03 11 22 32 43 52
21	05 16 24 35 44 55	03 14 24 34 44 54
22	03 13 26 36 54	03 22 29 45 53
23	18 40	19 40
24	01 23 47	01 23

ZUSHI MAP SUMIZUMI すみずみ

逗子

世帯数：2,468　人口：6,105
◎避難指定地・広域避難場所
第一運動公園／池子１丁目／逗子全域
◎一時避難所
延命寺境内　逗子3-1-17
逗子小学校校庭　逗子4-2-45
亀ヶ岡八幡宮境内　逗子5-2-13

逗子は田越川の川原にできた町で、JRと京急との駅にはさまれた市の中心部にあたっています。駅や銀行、商店、市役所、体育館、図書館などが集中しています。

●JR逗子駅

横須賀線は、もともと海軍の要請で敷いた鉄道でした。東海道線の開通と同時期で、日本で一番早くできた支線です。「鉄道唱歌」にも歌われていますが、この横須賀線の開通のおかげで、逗子・葉山は保養地として開けました。葉山の御用邸ができて、逗子駅の役目も増します。現在は横須賀線のダイヤは逗子での乗り換えが多くなり、「逗子線」の様相を呈しています。

●駅前ロータリー

人と車の分離ができるように、現在工事中です。

●京浜急行新逗子駅

昭和60年に京浜逗子駅と逗子海岸駅を併合してできた駅です。京浜逗子駅は、昭和5年に湘南電気鉄道逗子支線の開通時に、湘南逗子駅として開業されました。そこから南方へ三浦半島環状線として延伸計画もあったようですが、これは断念されています。ラッシュ時の対策のために車両編成を増やし、数百メートルしか離れていなかった前の二つの駅のほぼ中間に現在のホームがあります。

●亀ヶ岡神社

逗子の鎮守で祭神は、応神天皇と神功皇后とのことです。以前は単に八幡社と呼ばれていましたが、明治になって鎌倉鶴ヶ岡になぞらえてこう呼ばれるようになりました。昔の神体は鎌倉時代の銅造といわれる弥陀三尊の懸仏でしたが、これは今は延命寺に祀られています。

●延命寺

奈良時代に行基により開かれたと伝えられています。亀ヶ岡八幡宮にあった弥陀三尊の懸仏が祀られています。境内には北条早雲に敗れ、延命寺付近で自刃した三浦道香主従の供養塔と思われる７基の石塔があります。寺伝には弘法大師が行基作の延命地蔵尊があるのを見て、自ら厨子を作られ、逗子の地名もそこから来たと伝えています。

●市役所

以前小坪新宿にあった役場を延命寺の所に移転後、現在地へ再移転されました。木造の前庁舎は、昭和12年に、45,000円で建築されたもので、車寄せと望楼を備えたなかなか風格のある建物でした。鉄筋コンクリート造の現庁舎は、昭和59年、25億円で新築されたものですが、屋上を見るとちゃんと旧庁舎の望楼がデザインされています。

●田越川

田越村という旧村名は、当然田越川に由来しますが、その田越川は、鎌倉時代に幕府が編纂した「吾妻鏡」には「多古江川」と書かれています。

頼朝が建久5年に寺院に参拝したあと、多古江川辺に足を伸ばしたことも記録されています。この時代の川岸には、芦萩が生い茂って、刑場にふさわしいような場所だったのでしょうか。

かつては水量も多く、舟運の発達した時期もあったようです。田越橋上流、宗泰寺の付近には、船着き場の跡があります。桜山の旧家に伝わる文政年間の書類からは、魚をここまで船で運び、浦郷まで陸送し、そこから江戸へまた回漕していた様子がうかがえます。逗子と田浦・船越の間は三浦半島を最短距離で横断するのにいい場所だったのです。また、堀の内の旧家の古文書には、幕末に計画された船越と田越川の間に半島横断運河開削の記録があるそうです。

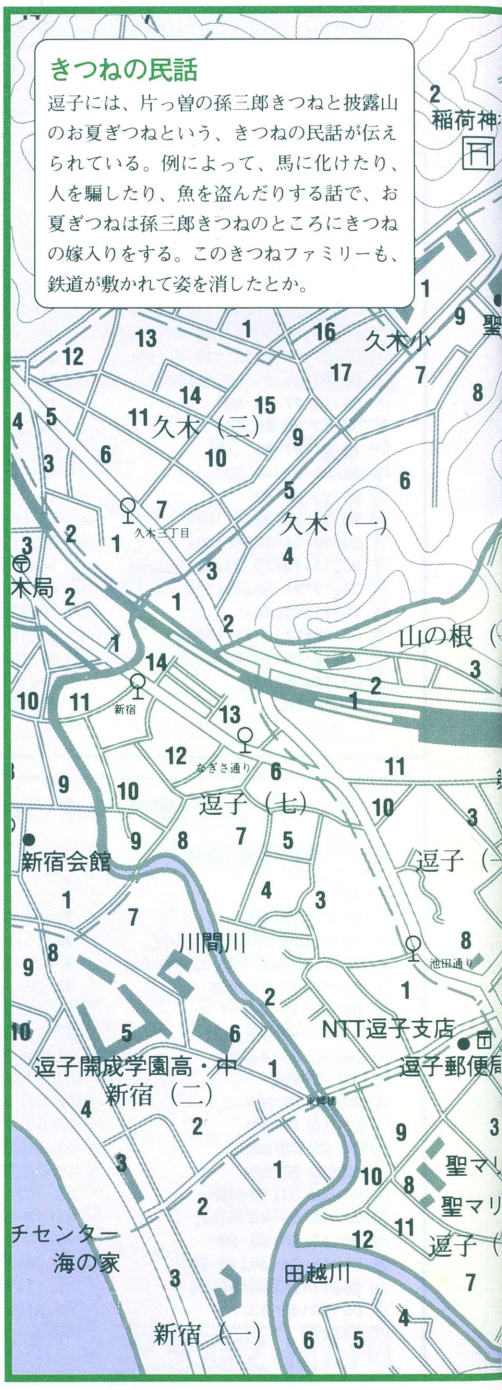
葉山町の鈴木三郎助は、田越川から原料・製品の運搬をして、現在の新逗子駅そばの工場で明治41年から「味の素」の製造をはじめました。逗子の工場は大正3年までありました。

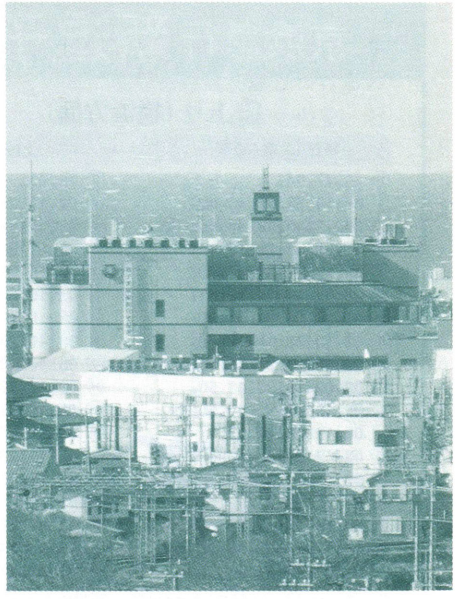
大正12年の関東大震災の時には、河口が1メートル隆起し、それまで上流の清水橋あたりまで上っていた船も入れなくなり、舟運は完全になくなってしまいました。

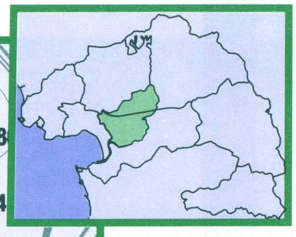
いまの田越川は、たくさんの大きな鯉がいささか窮屈そうに泳いでいます。

●三浦遺孤の碑

清水橋の西詰めに、三浦遺孤の碑があります。承久の乱に上皇側についた三浦胤義は、戦に敗れ討ち死にします。幕府はその九歳を頭に4人の遺子をとらえて、田越川で処刑します。



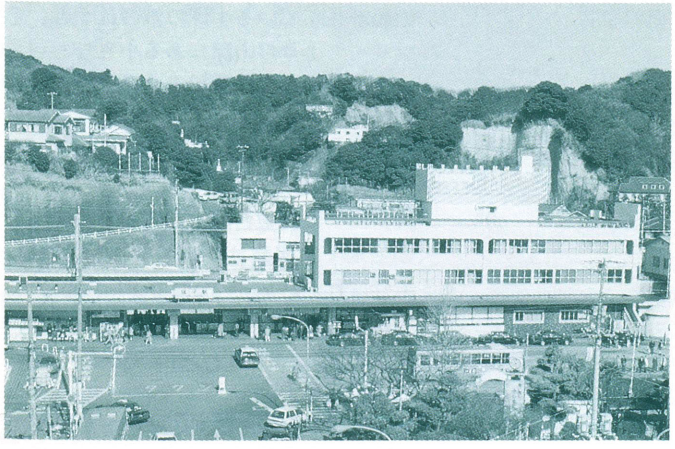

逗子市役所と逗子湾



ZUSHI SUMIZUMI MAP
山の根

世帯数：1,137　人口：2,836
◎避難指定地・広域避難場所
第一運動公園／池子１丁目／山の根全域
◎一時避難所
熊野神社境内　山の根2-4-1
松本谷戸遊園地　山の根3-101

山の根とは「山のきわ」という意味なのでしょうか、それとも山が根のように張り出しているという意味なのでしょうか。全体に谷戸が数本延びていて、その中を閑静な住宅地が埋めているこの地域の名前にふさわしい感じもします。



逗子駅と山の根の山

●熊野神社

山の根の鎮守で祭神はイザナギ・イザナミの命とされています。金沢踏切からすぐ山に向かって細い参道に鳥居が見えます。石段を登るとぐるり三方を山で囲まれた、社殿があり、その屋根の高さに横に並んだ横穴群が六穴あります。

●山の根横穴古墳群

昔のお墓ですが、山の根八十八穴と伝えられているように、逗子駅背後の山の根丘陵には横穴がたくさんあります。なかには彩色を施したものもあったそうです。

●片っ曽

「かたっそ」と読みます。断崖という意味で、JRで鎌倉から逗子に入ってくると車窓に目立つ崖があります。この池田踏切の北側にある断崖をこう呼んでいます。

●引込み線

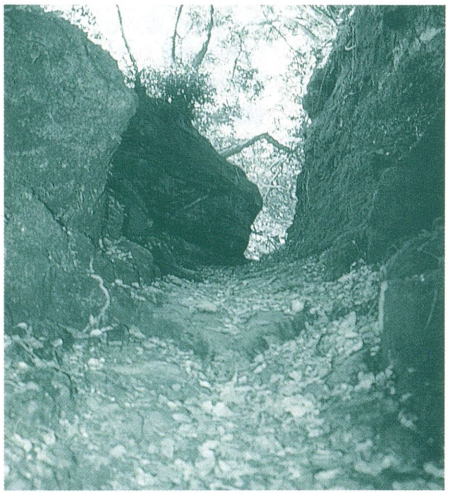
JRからの引込線が、山の根東のトンネルから池子川に沿って旧弾薬庫敷地内、神武寺駅そばに通じています。

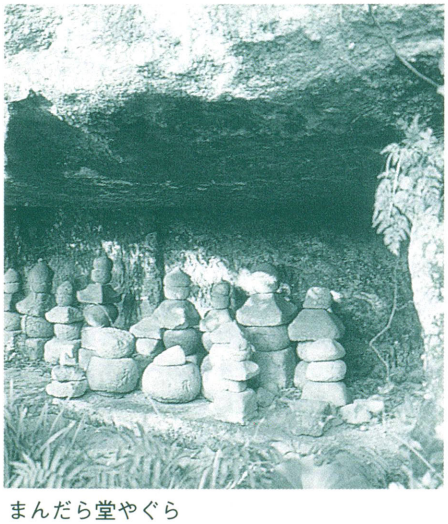
●県水道局逗子営業所

昭和の初め、県営水道が営業を開始します。深い山も大きな川もない逗子では、水道ができる前は水売りの商売が成り立っていたそうです。最初は津久井から横須賀へ海軍の必要から逗子を横切って水道管を引きました。そのうえに走る道なので、なぎさ通りから下田橋方面に抜ける道は水道路と呼ばれています。

小　坪

世帯数：3,178　人口：8,765
◎避難指定地・広域避難場所
披露山公園および披露山庭園住宅地／小坪3・4丁目～新宿5丁目／小坪全域
◎一時避難所
小坪小学校校庭　小坪3-6-1

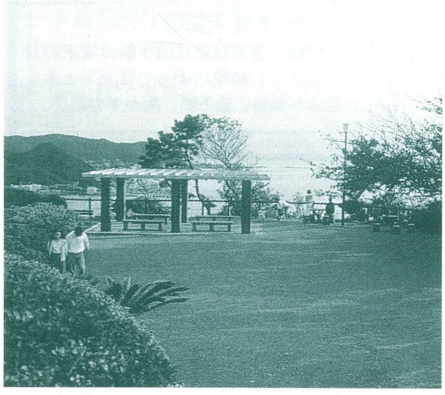

名越切通し


まんだら堂やぐら

鎌倉時代には、将軍や御家人の散策の地でした。頼朝の愛妾である亀ノ前を小坪に隠していた話は有名です。飯島埋め立て前は、「小壷」というのにふさわしい小さく静かな入り江だったのでしょう。逗子の中では昔は鎌倉の一部のような位置で、一番発展していて人口も多く「小坪千軒」と称された地域です。今でも、鎌倉に出るほうが便利といわれ、電話も一部鎌倉局が入っているのも何やら象徴的です。

●大崎公園

披露山公園から庭園住宅地を横断して歩いて10分、相模湾に突き出た岬の山頂にあります。小坪漁港を眼下に、富士山・大島・相模湾がパノラマ展開する景勝地です。園内に兎を型どった、泉鏡花文学碑があり、直筆の句が刻まれています。



●名越切通し

鎌倉七切通しの一つで、三浦と鎌倉をつなぐ要塞と交通路とを兼ねた昔の姿がよく残されている古道です。岩壁を切って通してある道で、頭の上におおいかぶさるように突き出した岩、人一人がようやく通れるくらいの幅しかありません。鎌倉独特の切通しは「名越」のほか「朝比奈」「巨福呂坂」「亀ヶ谷坂」「化粧坂」「大仏坂」「極楽寺坂」の七つあります。

●まんだら堂やぐら群

小坪トンネルと逗子トンネルの間から、石段を登ると、切通しの道に出ます。そこからすぐの所にまんだら堂跡があります。紫陽花や花菖蒲が群生していて、辺り一帯に立ち並ぶ大小のやぐら（横穴式の墓）のなかの五輪塔と奇妙なバランスをかもしだしています。

●和賀江島

干潮のときに飯島崎から鎌倉方面に目を向けると大小の石が磯になっているのが見えます。そして潮が満ちてくると水面下に没してしまうこの磯は自然のものではなく、今から760余年の昔に、荷揚げに難渋し、荷を積んだまま難破する船も多いのをみた、勧進聖の往阿弥陀仏の進言を入れて、築きあげられた日本最古の船着き場の跡です。

●正覚寺

本尊は木造阿弥陀如来立像です。切道の入り口には庚申塔群が並んでいます。光明寺を開いた然阿良忠を茶毘に付した跡という説があります。

●住吉城跡

正覚寺のうしろ、小坪海岸を見下ろす丘一帯が住吉城跡です。山城なので天守閣も石積みもありません。住吉城はかつて玉縄城、杉本城と並んで鎌倉三名城の一つとうたわれた砦でした。平塚の岡崎城を逃れた三浦義同はこの住吉城で小田原の北条早雲の攻撃を食い止めようとしましたが落城。油壷の新井城で父子共に最期を遂げています。その一角には住吉明神の社がまつられています。

●海前寺

本尊は木造阿弥陀三尊立像で、室町時代に造られた貴重な仏像です。市指定の文化財になっています。庚申塔や二十三夜塔が並んでいるお寺の下の切道沿いは、往時は親不知子不知ともいわれた波が打ち寄せる難所だったのです。

●逗子マリーナ

昭和42年の小坪飯島埋め立て工事で造られました。椰子の並木の埋立地にマンションが立ち並び、モーターボートやヨットを係留するマリーナやレストランなどがあります。休日になると夕陽のきれいな堤防は若者であふれています。

●小坪漁港

逗子市唯一の漁港です。魚市場にはその日とれた鮮魚が並び、遠くから車で買い物に来る人も多いようです。海岸には漁船の間にワカメが簾のように干してあるのどかな風景がみられます。小坪の漁師は「みずき漁」という伝統漁法ももっていました。

●小坪寺

香蔵寺と報身院という二つの寺が火事で焼け、合併して再興されたものです。香蔵寺には小坪小学校の前身、鷺の浦学舎がおかれていました。

●天王社（須賀神社）

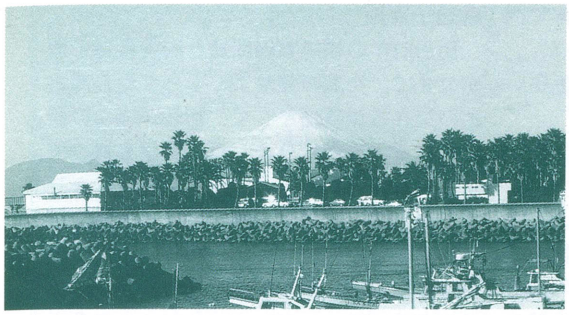
小坪の総鎮守で須佐之命をまつる海の神様です。33年に一度行なわれる葉山の森山神社の櫛稲田媛を訪れる神婚祭は、千年の伝統をもつめずらしい祭りで、前の大祭は昭和39年にありました。

●仏乗院

漁船が並んでいる小坪の浜のはずれ、小坪マリーナよりの山際にある小さなお寺です。本尊の木造阿弥陀如来立像は、鎌倉時代後期の手法を伝える仏像として、市指定の文化財になっています。

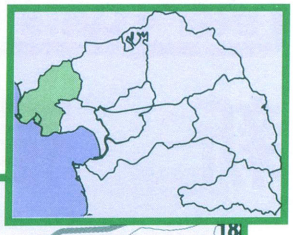
●披露山庭園住宅地

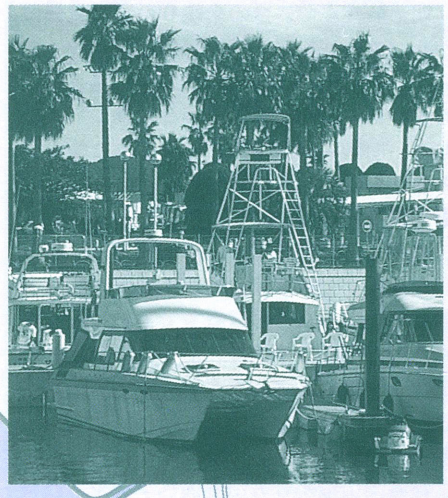
披露山公園展望台の下に広がる山の上の大邸宅地で、開発会社の名で「TBS団地」とも呼ばれています。公園の下に広がる大規模なものです。開発当時は物議をかもしましたが、もう同様のものはできないともいわれています。



小坪漁港からの富士

披露山庭園住宅地、マリーナと富士





名越トンネル・逗子トンネル・小坪トンネル
なぜか「お化けトンネル」というので有名になった。

南ケ丘団地、光明寺団地、亀ケ岡団地
逗子では比較的早くから開発が進んだ地域。

名越隧道
誠行社火葬場
名越切通し
まんだら堂跡
法性寺
逗子トンネル
小坪トンネル
南ケ丘自治会館
南ケ丘団地
小坪（七）
亀ケ丘会館
西武光明寺団地
亀ケ岡団地
小坪（一）
小坪（二）
小坪トンネル
小坪（六）
正覚寺
小坪海岸
住吉城跡
小坪（五）
小坪飯島公園
海前寺
神明社
須賀神社
神奈川信組
小坪寺
障害者作業所
小坪保育園
小坪公民館
小坪局
逗子マリーナ
一の宮神社
小坪分署
天照大神宮
八幡宮
小坪（三）
小坪（四）
新宿（四）
山神社
観音堂
尾崎行雄記念碑
披露山公園
ヨットハーバー
漁業振興センター
小坪漁港
プール
披露山庭園住宅
新宿（五）
稲荷神社
諏訪神社
仏乗院
伊勢山隧道
小坪マリーナ
大崎公園
高養寺（浪子不動）
八大竜王大神
不如帰碑
小坪大谷戸会館

海で遊ぶ
「吾妻鏡」には、頼朝や頼家などが小坪の浜で遊んだという記録が複数ある。小坪の浜に仮屋をたて、海に船を出し盃をかたむけて遊んだという。この地が「鎌倉の東のはずれ」であったことを思わせる。

●大崎公園
披露山庭園住宅地中央の道を西に突き当たったところが入口。

100m 200m 300m

新　宿

世帯数：1,252　人口：3,205
◎避難指定地・広域避難場所
披露山公園および披露山庭園住宅地／小坪３・４丁目～新宿５丁目／新宿全域
◎一時避難所
開成学園校庭　新宿2-5-1

かつては、小坪、披露山、新宿は一体で。新宿は東小坪と呼ばれていました。400年前頃、新しくできた宿ということから、この名となったようです。

●披露山

小学校低学年の遠足でいったという人も多い、お馴染みの山です。頂上付近は披露山公園で、逗子を一望できます。名前の由来は、将軍に献上物を披露したところ、鷺浦より献上の小壺を披露したところ、あるいは披露役人が住んだところから、といわれています。縄文・弥生・古墳時代の遺跡が多く発見された場所でもあります。

●新宿稲荷社

逗子の海岸西端の湘南道路から披露山東崖沿いに北上した所にあります。付近には多くの横穴古墳群があり、金環、瑪瑙、ガラスなどの出土品もありました。

●高養寺（浪子不動）

昭和の初め、この逗子に別荘をかまえていた高橋是清と犬養毅の援助を受け、本堂建立・復興改称したのが朱塗りの高養寺です。この名称は援助した二人の姓の各一字に因むものです。蘆花の「不如帰」が有名になってから、小説の舞台になった堂もヒロインの名をとって浪子不動と呼ばれるようになりましたが、昔は白滝浪切不動と呼ばれ、ここに参拝してから船を出すとよく波を切ったとの言い伝えがあったそうです。

●不如帰碑

浪子不動の正面の海中に「不如帰」と刻んである石碑が立っています。この大ベストセラー小説のおかげで、逗子も全国的に有名になりました。昭和8年、町制20周年を記念して町民の募金で建てられました。碑の石材は、鍋島藩が江戸城築城の際船で輸送中に暴風雨にあい沈んだものを引き揚げて使ったといわれます。文字は蘆花の兄徳富蘇峰の揮毫によるものです。

●さくら貝の歌の歌碑

昭和の初め、NHKラジオ歌謡としてヒットし、愛唱された「さくら貝の歌」は、作者の土屋花情が逗子海岸を散歩していて詞想を得てつくられたものです。浪子不動に直筆の歌詞を刻んだピンクの御影石の歌碑があります。

●逗子海岸

明治22年の横須賀線開通と同時に逗子駅ができて、交通の便がよくなってから海水浴のできる保養地として、別荘が盛んに建てられるようになりました。海岸も海水浴が人気の娯楽になって、賑わうことになりました。湘南道路ができる前は、白砂青松の海岸風景が展開していたのでしょう。最近では、遠浅で波穏やかな湾の条件からウインドサーフィンのメッカとしても有名です。

●富士見橋（旧田越橋）

明治時代まで、今の朱塗りの富士見橋のかかっている位置には旧田越橋がかかっていました。その田越橋は暴風雨で流されてしまい、一時期は渡し船が行き来していました。明治30年に上流にかけられた橋がその名をもらって田越橋となりました。

●東郷橋

それまでは川の名から川間橋と呼ばれていた橋のすぐ北側に、東郷平八郎が別荘を建てていました。日露戦争で英雄となった平八郎が別荘に来た際に地元で大歓迎会が催され、そのときに橋も川間橋から東郷橋に改称されたものです。

●尾崎行雄記念碑

披露山山頂から入口方面へ少し下った横に、昭和2年から29年まで当地に住んでいた尾崎行雄を記念して建てられた記念碑があります。碑文の書は自筆、肖像は朝倉文夫によるものです。

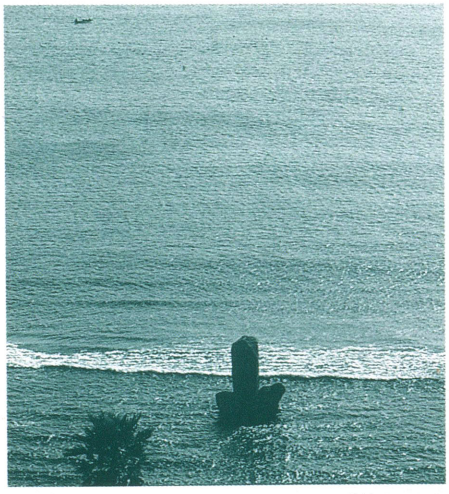
●逗子開成学園

「真白き富士の嶺　緑の江ノ島…」

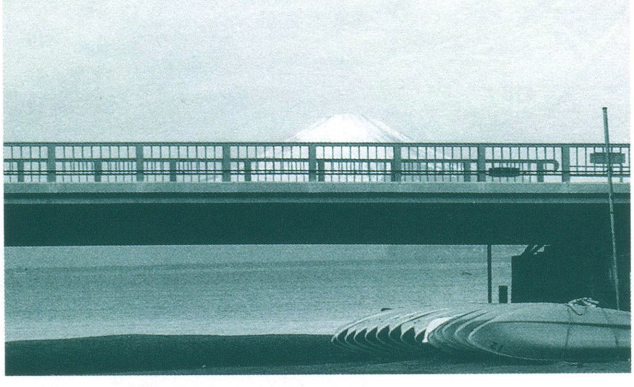
歌でも有名な開成中学のボート遭難事件は、明治43年1月に12名の生徒が鐙摺から漕ぎだしたカッターで遭難したもので、当時の世間の耳目を集めたそうです。逗子開成学園の校門を入ったところには、折れたオールをかたどったボート遭難碑があります。

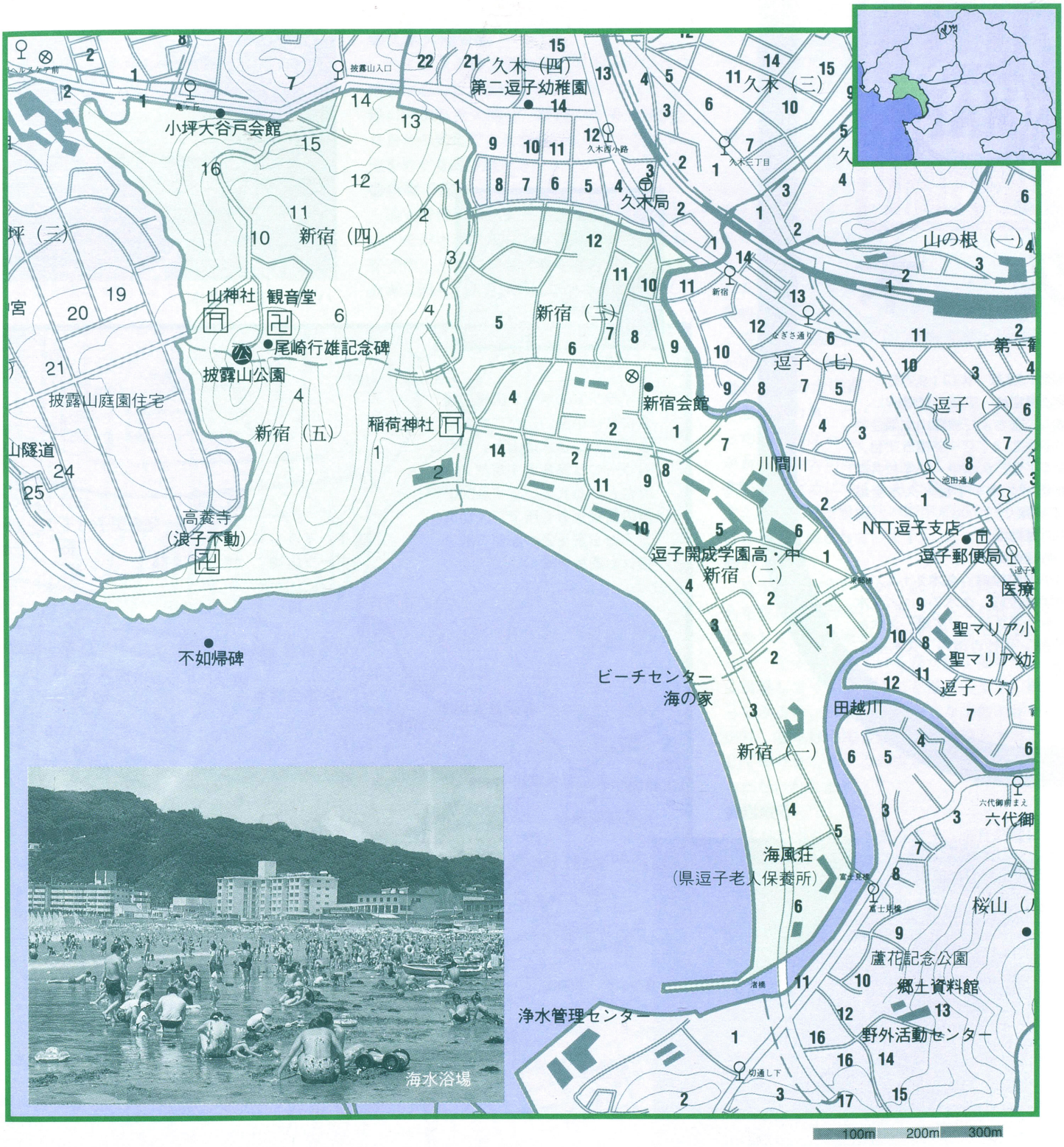
●湘南道路・渚橋

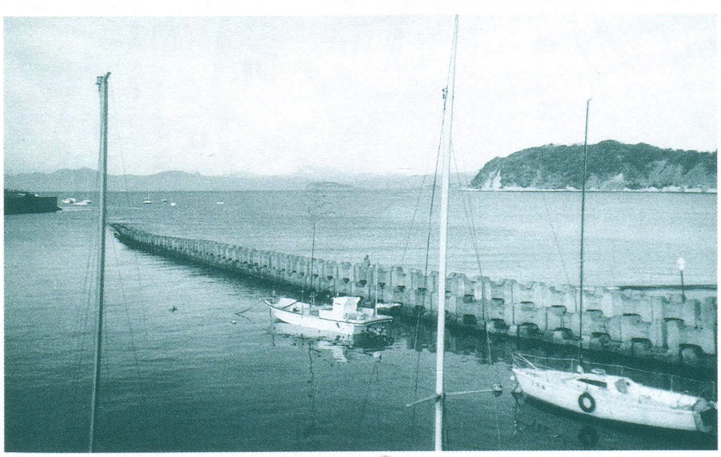
国道134号線のバイパスを果たす目的で、1960年代に建設された海岸沿いに走る道路です。田越川の河口にかかるのは、渚橋。シーズンや休日には三浦半島へのドライブなどで渋滞もひどく、渋滞情報によくでてくる名前になりました。


不如帰碑

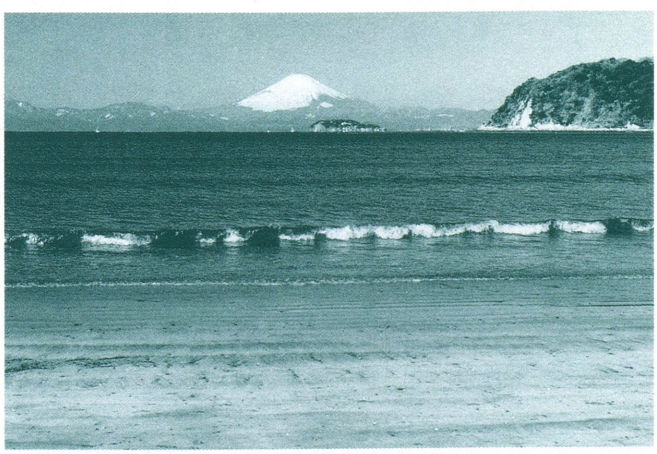
披露山


渚橋からの富士





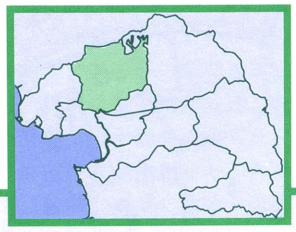
田越川河口からの富士



逗子海岸からの富士

久　木

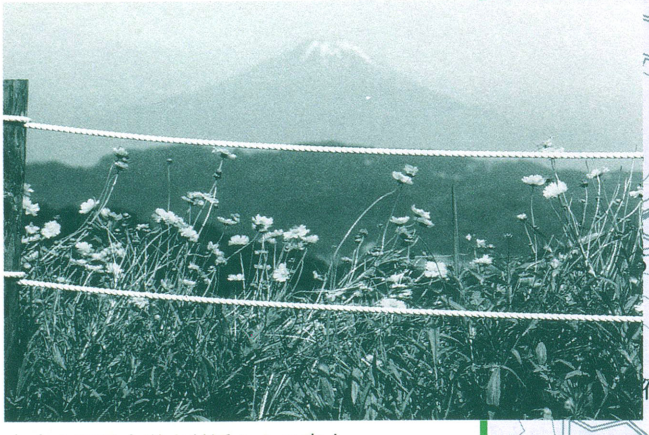
ハイランドの桜並木



世帯数：3,537　人口：9,772
◎避難指定地・広域避難場所
披露山公園および披露山庭園住宅地／小坪３・4丁目～新宿５丁目／久木４丁目、久木中・小学校共同運動場／久木２丁目／久木全域（４丁目除く）
／共同運動場
◎一時避難所
久木小学校校庭　久木2-1-1／久木中学校校庭　久木7-2-1／久木ハイランドスポーツ広場　久木8-362-83／法性寺境内　久木9-1828

ハイランドスポーツ広場の鎌倉よりに小高い丘が二つあります。一つは水道山といわれ、もう一つは鎌倉ですがパノラマ台といわれています。360度の展望がきく所で、大切岸、まんだら堂へとつながる散歩道はお薦めです。

久木大池公園



久木８丁目水道山付近からの富士

昔は久野谷郷といったこの地域、明治になって久野谷村と柏原村（現在の弾薬庫跡の一部）がいっしょになって「久木」となりました。

●ハイランド

昭和40年代半ばに開発された、一部は鎌倉の浄明寺にまたがる山の上の住宅地です。鎌倉十二所方面に抜ける道路があります。大通りの桜並木は、シーズンになると見事な花を咲かせています。

●久木大池公園

ハイランドの東側の谷、久木中学の奥の池を中心にした公園です。住宅のすぐそば、緑に囲まれた大池は、新緑や紅葉、四季おりおりの変化で人々を楽しませてくれます。池をめぐる遊歩道があります。

●新箸の宮跡

浪人時代の源頼朝が名越の山中で道に迷い、そのときに出会った娘広尾から茅の新芽で作った箸と粟飯でもてなされたという故事に因み、７月26日を新箸の節句として、そばを打ち茅の新芽で箸を作って供える風習が、久木の一部では昭和30年頃まで行なわれていました。新箸の宮というお堂もありましたが、いまは跡形もありません。

●法性寺

日蓮上人が松葉ヶ谷の庵を焼打ちされ、山伝いに逃げてきたとき、三匹の白い猿が現われて上人を洞窟にかくまい食物をすすめたという伝説があります。その場所に建立されたのがこの「法性寺」で、日蓮が隠れたといわれる岩屋も残っています。横須賀線の踏切のそばにある山門には「猿畑山」と書かれた額がかかり、その左右に白い猿が彫られています。

●お猿畠の大切岸

法性寺の奥、ハイランドの方向に切り立った崖が連なっているのが見えます。これがお猿畠の大切岸といい、対三浦氏用に鎌倉防衛のためにつくられた要塞跡の一部です。切り立った崖壇状の切岸が800メートルにわたって残されています。

●妙光寺

富永三郎左衛門という武士が松岡富永と名を改めて久野谷に引きこもって百姓暮らしをしていましたが、夢枕に日蓮上人が立って、土中に埋っている我が像を掘り出して供養してくれるようにと頼まれます。掘ってみると、日蓮上人の小さな坐像が見つかり、富永は小庵を建ててこの像を本尊として奉りました。この庵が後に妙光寺となったといわれます。

●岩殿寺

「がんでんじ」と読みます。奈良の昔に徳道上人と行基によって創建されたという言い伝えのある古寺です。中世には、源氏や北条氏の一族がたびたび参詣しています。本堂を左に見て奥に進みかなり急な石段を登ると、享保13年造立の萱ぶきの観音堂にでます。阪東33ケ所第2番の霊場で、門を入ると幟がずらりと並んでいます。

●久木神社

明治10年に久野谷村と柏原村の神社を合祀して、久木の鎮守になりました。現在の社殿、鳥居、狗犬は関東大震災後に建て直されたものです。

●久木小・中共同運動場

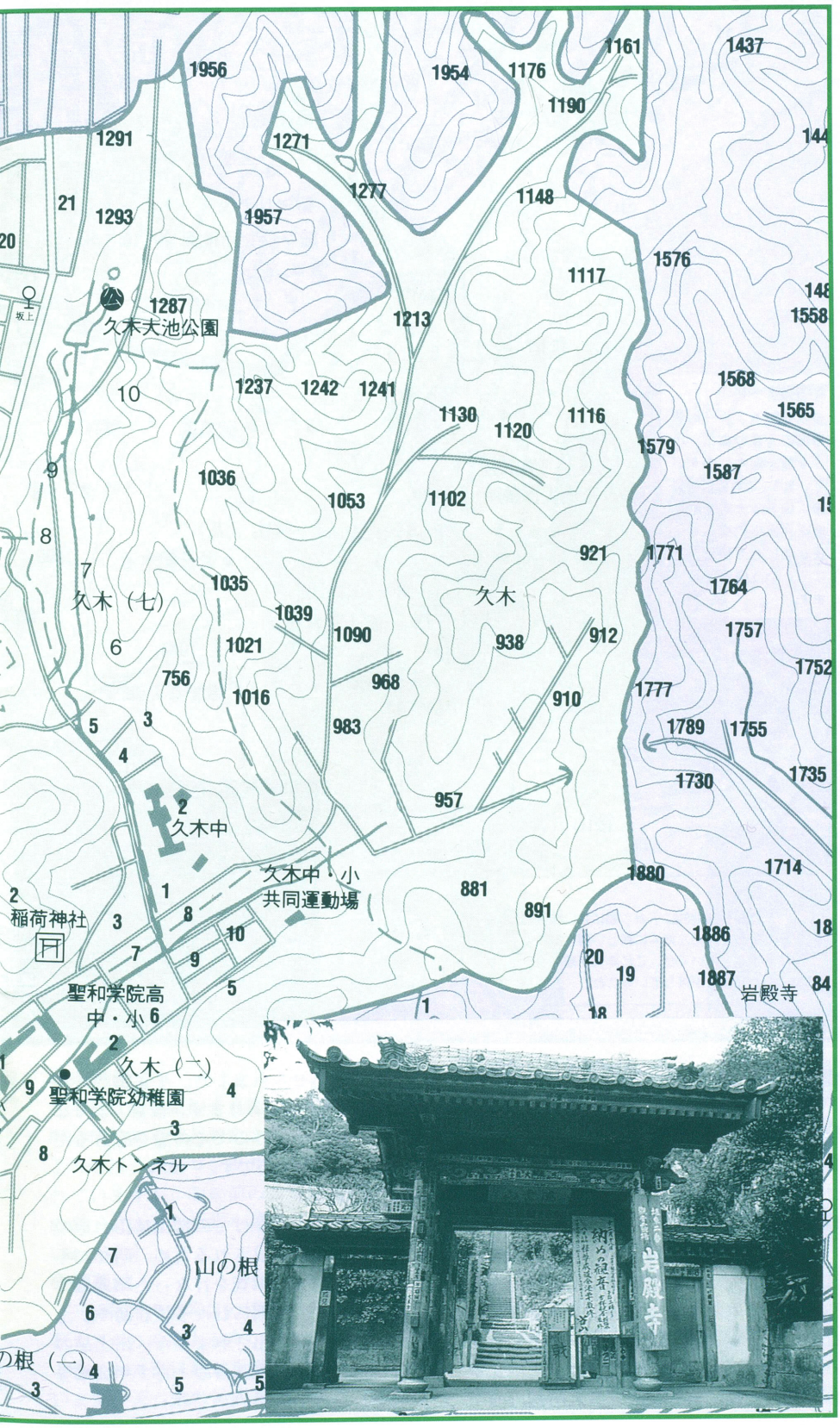
柏原接収地の一部が返還された所で、久木の東奥にあります。

●聖和学院

開成学園と並ぶ逗子の私学で、こちらは女学校です。女子バレーボールは全国制覇の実績をもっています。

●堰場

大昔の逗子はいまの市内の平地のほとんどは海中だったといわれます。横須賀線逗子駅から鎌倉よりの遮断機のない久木の踏切を堰場（せきば）踏切といいます。かつて、大潮のときでも海水が入ってこないように堰を設けた場所が、地名として残っているのです。



桜　山

世帯数：4,082　人口：10,672
◎避難指定地・広域避難場所
県水道局／逗子配水池／桜山８丁目／桜山８・９丁目付近一帯／第一運動公園／池子１丁目／桜山１～７丁目
◎一時避難所
桜山圧送ポンプ場付近一帯　桜山1-1-4／観蔵院境内　桜山5-6-1／桜山ポンプ場付近一帯　桜山6-1 290／桜山高区配水池付近一帯　桜山6-1 395／六代御前境内　桜山8-3-24

桜山きずなの森からの富士

地名の通り桜の多い山が東西に連なっています。「いにしえ桜樹多かりし故地名となりしと云ふ、相伝ふ夢窓国師此地の桜をもて、和州吉野山に植えしと」と風土記には記されています。

●鎧摺の不整合

関東大震災のあと渡辺久吉理学博士によって発見された、地質学上めずらしい地層です。2500万年の昔に成立していた葉山層と、1500万年の昔に堆積した逗子層とが境を接して重なっている、地層の不整合の状態が観察できます。県道際の崖の部分は、県指定の天然記念物、浄水管理センター用地内のものは、市指定の天然記念物になっています。

●浄水管理センター

全市に下水道を完備させるため、鎧摺の岩場を埋立ててできました。国木田独歩の詩碑があります。

●蘆花記念公園

昭和59年、市制施行30周年を記念して設けられた公園です。山道のあちこちに「自然と人生」などの一節をかいた立て札があります。逗子海岸を眼下に見る景観が素晴らしく、さらに山に登ると見晴らし台もあり、きずなの森へつながる登り道があります。蘆花公園の一角には、逗子市野外活動センターがあります。

●郷土資料館

大正元年に建築された建物で、元は貴族院議長・徳川家の16代家達の別荘だった木造平屋建ての建物です。文学・歴史・考古に分類して展示室があります。

●六代御前

平維盛の嫡子六代御前は、平家が西海で滅びた文治元年、北条時政に京都で捕らえられ処刑される寸前に文覚上人に助けられました。妙覚と名を改め、文覚の弟子となり仏道修業にはげんだのですが、正治元年の頼朝の死後、再び捕らえられ田越川の川原で斬罪に処せられました。平家物語にも「六代」という節があります。後世、よくないことが続くというのでその霊を慰めるため、墓を建てたものです。

●持田遺跡

逗子から葉山にかけての桜山持田台地の丘陵一帯が住宅造成されるため、昭和45年12月から緊急発掘調査を行なった結果、弥生時代中期から後期にわたる住居跡や、土器がいくつも掘り出されました。出土品の一部は市役所・市立図書館・青少年会館等に展示してあります。

●宗泰寺

本尊は阿弥陀如来立像で、造立時期は室町時代であろうと想定されています。現在この寺は、鉄筋コンクリート造りに改築されていますが、改築前のお堂は神武寺「向の坊」にあったお堂を移したものだったといわれます。

●観蔵院

三浦観音の23番目の札所です。「春なれや花もさかりの桜山みのりの声は南無観世音」と書かれた御詠歌が本堂の正面にかかっています。天台宗の神武寺の末寺で、蓮沼山観蔵院という呼び名もあり、本尊は十一面観音立像。本堂の前に法隆院境内から移された石仏が、2体祀られていて、市内地蔵尊像の中でも、最も古いものとされています。

●蘆花・独歩のゆかりの柳屋跡

国木田独歩は明治28年、逗子の柳屋に新婚の数か月をここで過ごしています。徳富蘆花が愛子夫人をともなって柳屋に来たのは明治30年のことで、ここで「不如帰」や「自然と人生」などの作品が書かれています。当時の建物は昭和29年に焼けてしまい、今は昔の面影をしのぶことはできませんが、富士見橋近く道路に面した所に藤原磋水の筆で記念碑が建てられています。

●葉桜住宅

桜山の一番高いところに大きな高区配水池のタンクが目立っています。葉山と桜山にまたがるので、葉桜住宅、ネーミングの妙です。これに続いて山の上東側には、イトーピア逗子葉山団地がひろがります。実はこの団地のほとんどは葉山町に属していて、逗子は一部のみです。

ZUSHI SUMIZUMI MAP

池　子

世帯数：2,542　人口：7,106
◎避難指定地・広域避難場所
逗子中、逗子高校および県立森林公園予定地一帯／沼間２・３丁目～池子４丁目／沼間全域、池子全域
◎一時避難所
池子小学校校庭　池子3-9-1

池子は江戸時代、鎌倉の扇が谷の英勝寺領でした。代々水戸家の姫が尼となる格式高い寺の領地だったので、逗子の他の村とは別格とされ、村人もそれを誇りにしていたようです。阿弥陀ヶ谷、菅ヶ谷、星ヶ谷、明ヶ谷といった古い字地名がぴったりという雰囲気もわずかながら残る池子の半分以上は、旧池子弾薬庫の山並みが占めています。沼間と同じく池子にも大蛇退治の伝説もありますが、こちらは大蛇のたたりで退治した若者たちが死んでしまう話です。

●池子の森

昭和13年から海軍の火薬庫としての工事が始まり、19年までの間に地域内の住民50数世帯が立ち退きを命じられ、山中にトンネルを掘り、火薬が貯蔵されていました。戦後は米軍の接収地となり、弾薬庫として使用中には爆発事故も起こりました。返還後も国有地として一般の立入りが許可されずにいたので、自然環境は保たれていましたが、この場所に米軍家族住宅の建設工事計画が進められ、長く逗子市の大きな問題となってきました。池子の森の山波は四季折々に美しい姿を見せてくれます。

●池子遺跡群

弾薬庫跡地の平地部に大規模な遺跡群が発見され、神奈川県立埋蔵文化財センターが発掘捜査を行なっています。弥生時代の竪穴住居跡・土器をはじめ、旧河道と多量の木製品が出土して注目されています。古墳時代の住居跡・墓・土器・木道などの上には、平安時代の遺跡、その上には中世の遺跡、そして近世と、人が暮らしてきた跡が重なり合っている複合遺跡です。

●神武寺駅

昔の駅はもっと北よりにあったようですが、弾薬庫の関係で、今の位置に移されたといいます。小さな駅も、平日は学生や通勤の人で、休日には神武寺ハイキングの人でにぎわっています。

●東昌寺

北条泰時が鎌倉葛西ヶ谷に青龍山東勝寺を建立しました。元弘３年、新田義貞の鎌倉攻めで幕府が倒れ、北条高時以下がこの寺で自害し、焼ける寺から住職が本尊を救って池子に逃がれ、池子東勝寺を起こしたと伝えられていますが、定かではありません。池子が英勝寺領となった時、勝を昌に変え東昌寺とされたといわれています。明治36年に逗子開成中学が開校する前、その前身はこの寺の本堂にあったそうです。現在はこじんまりとしているが大伽藍であったようです。本尊大日如来像、北条政子が実朝の供養に阿弥陀ヶ谷にたてた伝説の丈六阿弥陀仏があります。

●須賀神社

池子各地にあった神社をまとめて合祀「神明社」としました。ご神体等を英勝寺より拝領したものと伝えられています。鳥居右の崖には庚申塔、左崖には地蔵があり、岩山の上に建っています。

●第一運動公園

元は弾薬庫の管理施設があった場所で、返還後は野球場・プール・テニスコート・広場などがある公園となりました。市民まつりなどが開かれます。周りを囲む桜並木もきれいになってきました。

●さいの神

運動公園入口に近い横須賀線踏切のそばの大イチョウの根方にあり、自然石の道祖神が祭られ、耳の神様です。

●池子大池

昭和57年には、大池のうち半分以上が埋め立られて、そこに高齢者センターができました。そのため、今では池は狭くなってしまいましたが、昔の大池は子供達の水泳の練習場所でもあったそうです。池子という地名からも想像されるように、逗子中の奥の摺鉢池など、池はかつてはいくつかあったようです。

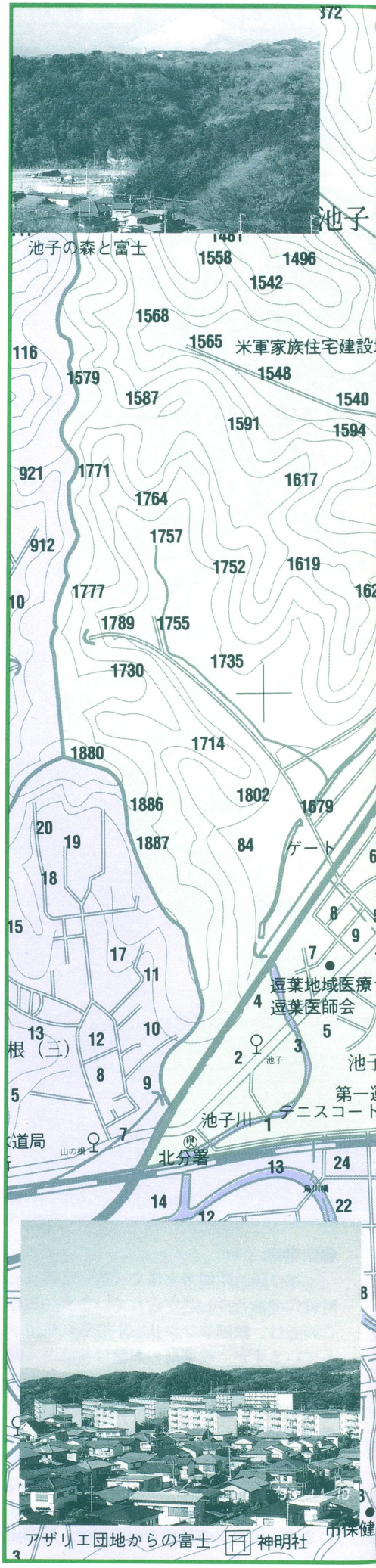
●アザリエ団地

昭和40年代に山を開いて開発された住宅地で、俗に開発順に「１期」「２期」「３期」といわれる３ブロックに分かれています。隣接する池子団地、東逗子団地などとあわせ、昔の池子にはなかった新しい町が広がっています。

●池子石

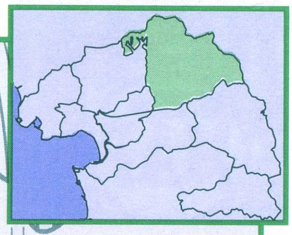
池子の山中は、大正の頃には池子石という石を産出し、アザリエ神武寺より山中、逗子ホームせせらぎの奥など、石切場の跡もそこここに残っています。いまも石垣などに使われ残っているところもあります。

池子の森と富士



アザリエ団地からの富士

神明社



〔鷹取山ハイキングコース〕

京浜急行神武寺駅から逗子中、せせらぎを経てのコースと、JR横須賀線東逗子駅から踏切を渡って入るコースが一般的。一番高いところでも標高150メートル足らずなので、足弱な人でも登れるが、神武寺から上がちょっと急坂。これを登るとあとはぶらぶらと鷹取山まで。

途中、十の国が望めるという十州望展望台があるが、現在は木が茂ってあまり名前ほど展望はよくない。それよりも、親不知あたりが展望はよい。

その親不知の岩の上に立つと、山の下がトンネルでぶちぬかれ、横浜横須賀道路を走る車の音がうなるようにせり上がってくる。かつての静寂は完全に失われた。岩に腰掛け、風にのって流れてくるはるか眼下の車の音を聞くのも現代のハイキングなのであろうか。

鷹取山山頂は横須賀市になるが、そのすぐ下までは逗子市。山頂には立派な展望台ができた。目の前に大きな磨崖仏、すぐ下は団地、その向こうに東京湾が見える。鷹取山は昔からロッククライマーの入門道場として有名だったが、転落事故も相次いで岩登りは禁止ということになっている。

鷹取山から、逗子市と横須賀市、横浜市の境界線の道を、清掃センターに抜けることもできる。

俎板岩

せせらぎの北東側の山の尾根にある大きな台状の岩。

沼間

世帯数：3,294　人口：9,000
◎避難指定地・広域避難場所
逗子中、逗子高校および県立森林公園予定地一帯／沼間２・３丁目～池子４丁目／沼間全域、池子全域
◎一時避難所
沼間小学校校庭　沼間1-7-18／海宝院境内　沼間2-12-15／五霊神社境内　沼間3-10-34／法勝寺境内　沼間4-1-1

かつては低湿地帯で、沼が多かったところからこの名がついたのでしょうか。大沼に七つ頭の大蛇がいて人々を悩ましていましたが、これを退治して霊を七諏訪社として祀り、沼を埋めて沼間の里ができたという伝説が伝えられています。逗子の中では「鎌倉郡沼浜郷」として最初に文献に登場する古い土地です。

●東逗子駅

横須賀線が市の真ん中を一直線に走るその中ほど、昭和27年に地元の人々の熱心な誘致運動のおかげで新しくできたのがこの駅です。利用者の多くが定期券の利用者だそうです。

●神武寺

寺の創建は古く、縁起によれば奈良時代聖武天皇の夢のおつげにより命を受けた行基菩薩開山と伝えられています。十一面観音、釈迦如来薬師如来の三尊を祀ってあり、文徳天皇の時代に天台座主慈覚大師によって七堂伽藍も整備され盛んになりました。明治初年までは奥の院を女人禁制とし今でも、「従是右奥之院女人禁制」の碑が立っています。梵鐘や薬師堂の前のなんじゃもんじゃの木が有名です。

●みろくやぐら

神武寺の鐘楼の下、墓地の奥に崖にやぐらがあり弥勒像が安置されていて、光背に鎌倉鶴ケ岡八幡宮の「大唐高麗舞師」中原光氏の銘があります。埋葬者のはっきりしたやぐらの珍しい例とされています。

●海宝院

北条氏の影響の強かった三浦半島を統治するため、江戸初期に家康によって任命された三浦の代官、長谷川長綱は、逗子の各地も検地しています。その長綱により建立された寺で、一族の墓もあります。流転の鐘といわれる応永10年銘の鐘、朱塗り、藁葺きの禅宗様四脚門があります。

●光照寺

寺開創の時期は不明ですが、伝承によると源義朝の長子悪源太義平の菩提を弔うために建てられたと伝えられています。明治初年に神仏分離が行なわれる前は、五霊神社の別当寺をつとめていました。本尊は木造の阿弥陀如来像が祀られており、市の重要文化財に指定されています。

●法勝寺

この辺りには古く「沼浜城」があったと伝えられています。寺周辺には御林、番場、ぶどう屋敷、殿薮、矢の根などの地名が残っています。これは頼朝の父義朝の館の跡だという説があり、吾妻鏡に「沼浜亭」の記録もありますが定かではないようです。

●五霊社

明治にオクマサマ、お諏訪様など近在の五つの社を合祀しました。それ以前から御霊社といわれており、荒魂の神でした。境内には、樹齢500年、幹の周囲6mのオオイチョウのほか、タブなどの広葉樹林帯の特長を示す樹林があり、県の天然記念物に指定されています。この社は沼間の鎮守で、祭神は天手力雄尊とも、また鎌倉権五郎景政ともいわれます。かつては広い境内が線路のあたりまで広がっていたそうです。

●横横道路逗子IC

横浜・横須賀道路、通称ヨコヨコ道路といい、横浜から三浦半島に神武寺の山をトンネルでぶちぬいてタテに走る高速です。逗子の新しい玄関口、逗子ICができて車族には便利になりました。

●汐止橋

古くは現在の平地の部分まで海が入江になって入り込んでいたらしく、沼間の東逗子駅の西側には、それを裏付ける「汐止橋」という橋もありました。

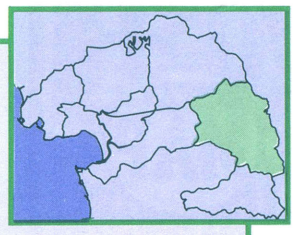
●グリーンヒル・アーデンヒル

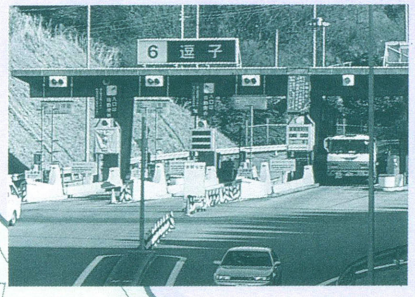
沼間の南側の丘を造成してできた、新しい町が、逗葉新道を挟んで東西に広がっています。特にアーデンヒルは逗子で一番新しい町で、沼間中学校もここにできています。

●鷹取山ハイキングコース 神武寺参道

東逗子駅から踏切をわたって、神武寺トンネルが見えるところから右手の山道に入っていくのが神武寺表参道です。東逗子駅裏の道から神武寺の墓地に登る自動車道もあります。

東逗子跨線橋からの富士





逗子IC

鷹取山
親不知
十州望
山王神社
神武寺
沼間（二）
沼間（四）
沼間（六）
沼間（五）
沼間（三）
法勝寺
光照寺
かぐのみ幼稚園
沼間会館
沼間公民館
五霊神社
沼間トンネル
逗子インターチェンジ
横須賀市水道局
水質試験場
西武グリーンヒル
グリーンヒル
自治会館
逗葉新道
逗葉トンネル
沼間中
南営住宅
アーデンヒル
アーデンヒルからの富士
馬頭観音

100m 200m 300m

ZUSHI SUMIZUMI MAP すみずみ

桜山大山

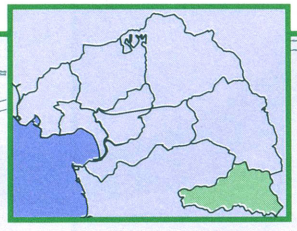
地図で見ると魚が跳ねたような形の逗子市の、ちょうどしっぽにあたる部分を桜山大山といいます。もとは葉山の区域に属していましたが、葉山の代官がお上の不興をかったとかでとりあげられ、逗子になった土地だとか、酒二升つけて貰った土地だとかいわれているところです。なるほど地形的にみるとそれもよくうなずける話です。

●二子山

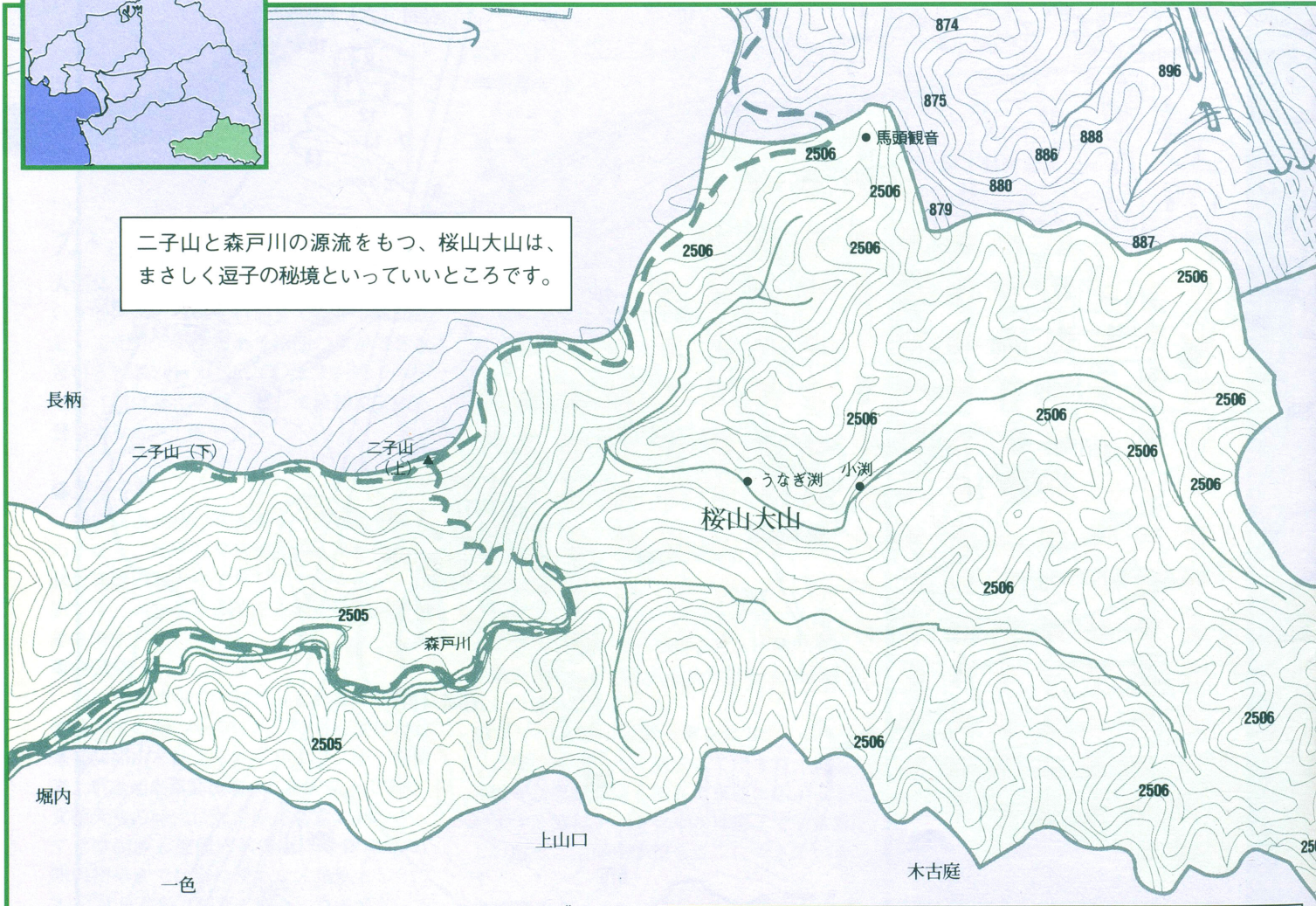
二子山はその名のとおり二つの峰を持つ山です。その一方に展望台が設置されており、そこからは相模湾の景色や森戸川源流域の渓谷美が楽しめます。シダ類や落葉広葉樹などの緑豊かな自然がそのまま残る山道を歩くコースは、格好のハイキングコースです。秋には周辺の山でキノコ狩りも楽しめます。帰りは森戸川の源流を下って、葉山の長柄に出るコースが一般的です。

「桜山大山の『うなぎ渕』の民話」

昔々長柄の村にそれは気の強い婆さまがおりました。婆さまは毎日山奥まで入っては獲物を探していました。ある日、いつものように獲物を探していると、大渕の滝つぼの方からばしゃばしゃと大きな音が聞こえてきました。婆さまが不思議に思い覗いてみると、そこには化け物のように大きなうなぎが滝つぼから浅瀬に這い上がっているところでした。気の強い婆さまは驚きもせず、「しめた」とばかりに手に持っていた鎌をうなぎの脳天めがけて切りつけました。急所に当たったらしく、うなぎはそれきり動かなくなったので、婆さまはそれから毎日7日間もうなぎを輪切りにして一切れずつ持ち帰りました。8日目に最後の輪切りを頭だけ残して持ち帰りかけた時、われがねのような声で「婆さま7、まだひとっくるま残っているでよう」と、残されたうなぎの頭がしゃべったのです。この時ばかりは婆さまも真っ青になって、持っていた籠も鎌もほうりだして、一目散に村へと逃げ帰りました。婆さまは長い間病気で寝込んでしまい、うわごとばかり言っていたそうです。それ以来里人は大渕の事を「うなぎ渕」と呼ぶようになりました。



二子山と森戸川の源流をもつ、桜山大山は、まさしく逗子の秘境といっていいところです。



二子山への登山口

二子山への登り道は、沼間小学校の裏からが一般的です。その他五霊神社の裏からも、グリーンヒルからも登れます。

ごあいさつ

逗子市長

澤　光代

平成6年4月15日に本市は、市制施行40周年を迎えるに至りました。

これに先立ちまして、公募の市民や各団体・機関の代表者の方々など、多数の市民の参加による自主的な組織として、記念事業を企画、実施するための市制40周年記念事業実行委員会が結成されました。記念事業の企画・実施は実行委員会が行ない、市は事業費の交付等支援・協力を行なうという従来にはない形での取り組みが実現し、これまで様々な記念事業が展開されて参りました。

この記念誌の発行も記念事業の一環として、実行委員会の皆様の手により行なわれたものです。本冊子の編集・制作等に携わられた方々のご努力が実を結び、市民の皆様に有意義なまたご活用いただける冊子となったものと信じております。最後になりましたが、実行委員会の皆様のこれまでのご努力に深く感謝申し上げます。

市制40周年記念事業実行委員会
委員長

田中俊樹

市制40周年記念事業実行委員会はこの節目の年を記念して、公募による市民参加と、市内のボランティア団体などからの参加者により組織運営されています。平成5年7月に企画委員会の後を受け、市民が主体となって手づくりの事業を実践するという難題を引き継ぐことになり、10の部会と事務局を設置させていただきました。

市民のボランティアの力と限られた予算、多くの制約のなかで、必ずしも満足な点ばかりではありませんでしたが、事業のすべてが市民のボランティアの汗と努力の結晶です。

この記念誌「Z-MAP」の発行もそういったプロジェクトの一つで、「一家に一冊、あれば便利で役に立つ、逗子のことがいろいろわかる地図帳」としてつくられました。と同時に、実行委員会の記念事業全体をまとめたご報告と、今後の予定のお知らせをも兼ねたものです。

多くの方々のご協力に、深く感謝し御礼申し上げます。

市制40周年記念事業実行委員会

＜委員長/副委員長＞
田中　俊樹
菊池　一誠
小林　孝子
羽山　泰弘

＜専務＞
西崎　　隆

＜監事＞
葉山　衛司
渡邊　　明

＜事務局＞
・森谷　紀子
■総務部会
神尾　典子
＊田中　洋子
寺前　光子
早野　順子
宮崎トシ子
■財務部会
林　志華雄
藤森婦美子
＊山下美津江

＜団体事業室＞
・小林　壽志
■市民まつり部会
石黒　美雄
牛尾　仁子
垣生　清矩
梶川　雄司
金子　祐司
川上壮二郎
菅原　利重
森　　遥子
＊山上　　良
■団体事業部会
＊大西　邦子
加茂　幸次
竹村　敏朗
匂坂　　洋
二宮孝治郎
二瓶　　武
平井　規之
目迫　豊喜
柳下　隆良

＜記念事業室＞
・斎藤恵一郎
■イベント部会
秋元　金子
伊奈　　正
岩下　　晋
岡本　純子
岸田　宣男
千葉　邦雄
眞下　政次
＊村上　尚雄
村木　定夫
山下　規之
■継続事業部会
秋元　佑夫
石渡　英子
今井　義廣
内島　忠男
小野　重長
佐久間　浩
高山　啓市
田口　　聰
田中　　肇
原　きく子
＊平野　佳一
平野　健次
藤原　美樹
山田　真司

＜記念式典室＞
・中村　　弦
■式典運営部会
大木登喜子
＊大野　順啓
落合　恭子
北村　　薫
小林　庄一
佐藤　　昇
鈴木　士郎
竹下　敬子
西澤　庄二
堀井　玉代
村田　晴楓
吉田　慎一
渡邊　游香
■サーフ21部会
＊今井　末男
小野　訓子
清田耕一郎
斎藤　和子
高木　和男
建川　常次
徳本　郁子
友野　　薫
野口　邦男
平井喜久枝
山上　良夫
渡邊美智子

＜記念講演室＞
・高橋　義雄
■記念講演部会
秋山　　至
加藤　貴之
斎藤　邦彦
千葉　弘幸
＊手賀　　啓
野口　尚宏
■シンポジウム部会
加藤　久明
最首　祥互
杉山　　賢
須田　節子
清　　陽子
辻田　義治
角田　　進
平野　和一
＊山中　大和

＜広報室＞
・山口　　晃
■記念誌部会
遠藤　治良
＊大江　高司
小林　貞雄
齋藤　　稔
樋口　一誠
宮崎　隆三
■50周年提言部会
足立　俊輔
今泉　文代
高橋　蕉翠
照沼　信行
東海　邦彦
中田　常治
長野　芳剛
＊西尾　忠幸
山本　啓一

・印は室長/事務局長
＊印は部会長（50音順）

●逗子の「逗」

逗子の「逗」は、しんにゅうの点がちょんちょんと二つあるのが正しいといわれていますが、本誌では新聞など一般的表記にしたがっています。

●逗子から見える富士山

本文中各地域から見える富士山の写真は、市制40周年を記念した「広報ずし」の企画で、市民から応募のあったものの一部を紹介させていただきました。

■この冊子の編集にあたっては、次の方々のご指導ご協力をいただきました。
市史編纂室、市関係各課
三浦澄子氏
参考資料：「逗子道の辺百史話」、「改訂逗子町誌」、「逗子市史」、「逗子の三代史」

■この地図の作成にあたっては、建設省国土地理院長の承認を得て、同院発行の1万分の1地形図を使用したものです。（承認番号 平関使第183号）

逗子市制40周年記念誌
Z-MAP

発　行：1994年10月20日　　（非売品）
発行者：市制40周年記念事業実行委員会
（問い合わせ先：逗子市役所内
都市政策課）

こどもたちの描く

逗子の未来図

最優秀作品

小学校低学年の部
石黒　真理
（池子小３年）

小学校高学年の部
玉川　美炎
（小坪小５年）

中学校の部
根建　美奈子
（逗子中２年）